

(様式第10)

奈 医 病 管 第 1 2 1 号
令 和 元 年 1 0 月 5 日

厚生労働大臣

殿

開設者名
公立大学法人奈良県立医科大学
理事長 細井 裕司 (印)

奈良県立医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3第1項及び医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）第9条の2の2の第1項の規定に基づき、平成30年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

| | |
|-----|--------------------------|
| 住 所 | 〒634-8521 奈良県橿原市四条町840番地 |
| 氏 名 | 公立大学法人奈良県立医科大学 |

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

| |
|--------------|
| 奈良県立医科大学附属病院 |
|--------------|

3 所在の場所

| | |
|--------------------------|-------------------|
| 〒634-8522 奈良県橿原市四条町840番地 | 電話(0744) 22-3051 |
|--------------------------|-------------------|

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

| |
|---|
| 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 |
| 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜 |

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

| 内科 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無 |
|--|--|
| 内科と組み合わせた診療科名等 | |
| 1 呼吸器内科 2 消化器内科 ③ 循環器内科 ④ 腎臓内科 | |
| 5 神経内科 6 血液内科 7 内分泌内科 8 代謝内科 | |
| 9 感染症内科 10 アレルギー疾患内科またはアレルギー科 11 リウマチ科 | |
| 診療実績 | |
| 「呼吸器内科」「血液内科」「アレルギー内科」の診療内容は呼吸器・アレルギー・血液内科で、「消化器内科」「内分泌内科」「代謝内科」の診療内容は消化器・内分泌代謝内科で、「神経内科」の診療内容は脳神経内科で、「感染症内科」の診療内容は「感染制御内科」で、「リウマチ科」の診療内容は整形外科で提供している。 | |

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

| | |
|---|--|
| 外科 | <input type="checkbox"/> 有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無 |
| 外科と組み合わせた診療科名 | |
| ① 呼吸器外科 2 消化器外科 3 乳腺外科 4 心臓外科 | |
| 5 血管外科 ⑥ 心臓血管外科 7 内分泌外科 8 小児外科 | |
| 診療実績 「消化器外科」「乳腺外科」「小児外科」の診療内容は消化器外科・小児外科・乳腺外科で、「内分泌外科」の診療内容は耳鼻咽喉・頭頸部外科で提供している。 | |

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
- 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

| | |
|--|--|
| ① 精神科 ② 小児科 ③ 整形外科 ④ 脳神経外科 ⑤ 皮膚科 | |
| ⑥ 泌尿器科 ⑦ 産婦人科 8 産科 9 婦人科 ⑩ 眼科 ⑪ 耳鼻咽喉科 | |
| ⑫ 放射線科 13 放射線診断科 ⑭ 放射線治療科 ⑮ 麻酔科 ⑯ 救急科 | |

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

| | |
|--|--|
| 歯科 | <input type="checkbox"/> 有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無 |
| 歯科と組み合わせた診療科名 | |
| 1 小児歯科 2 矯正歯科 3 口腔外科 | |
| 歯科の診療体制 通常の歯科診療内容は歯科口腔外科で提供している。 | |

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
- 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

| | |
|---|--|
| 1 感染制御内科 2 消化器・内分泌代謝内科 3 呼吸器・アレルギー・血液内科 4 脳神経内科 5 消化器外科・小児外科・乳腺外科 | |
| 6 耳鼻咽喉・頭頸部外科 7 形成外科 8 歯科口腔外科 9 病理診断科 10 リハビリテーション科 | |
| 11 12 13 14 15 | |
| 16 17 18 19 20 | |

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

| | | | | | |
|------|-----|----|----|------|------|
| 精神 | 感染症 | 結核 | 療養 | 一般 | 合計 |
| 108床 | 9床 | 0床 | 0床 | 875床 | 992床 |

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

| 職 種 | 常 勤 | 非常勤 | 合 計 | 職 種 | 員 数 | 職 種 | 員 数 |
|-------|-------|-------|---------|---------|------|-------------|-------|
| 医 師 | 585 人 | 160 人 | 642.0 人 | 看護補助者 | 44 人 | 診療エックス線技師 | 0 人 |
| 歯科医師 | 21 人 | 21 人 | 23.6 人 | 理学療法士 | 30 人 | 臨床検査技師 | 88 人 |
| 薬剤師 | 58 人 | 12 人 | 63.7 人 | 作業療法士 | 10 人 | 衛生検査技師 | 1 人 |
| 保健師 | 0 人 | 1 人 | 0.6 人 | 視能訓練士 | 7 人 | その他 | 0 人 |
| 助産師 | 47 人 | 11 人 | 51.0 人 | 義肢装具士 | 0 人 | あん摩マッサージ指圧師 | 0 人 |
| 看護師 | 795 人 | 215 人 | 891.6 人 | 臨床工学士 | 40 人 | 医療社会事業従事者 | 26 人 |
| 准看護師 | 1 人 | 0 人 | 1.0 人 | 栄 養 士 | 0 人 | その他の技術員 | 0 人 |
| 歯科衛生士 | 3 人 | 0 人 | 3.0 人 | 歯科技工士 | 3 人 | 事 務 職 員 | 215 人 |
| 管理栄養士 | 11 人 | 1 人 | 11.9 人 | 診療放射線技師 | 57 人 | その他の職員 | 0 人 |

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

| 専門医名 | 人 数 | 専門医名 | 人 数 |
|-------------|------|-------------|-------|
| 総合内科専門医 | 58 人 | 眼 科 専 門 医 | 10 人 |
| 外 科 専 門 医 | 39 人 | 耳鼻咽喉科専門医 | 12 人 |
| 精 神 科 専 門 医 | 13 人 | 放射線科専門医 | 30 人 |
| 小 児 科 専 門 医 | 19 人 | 脳神経外科専門医 | 16 人 |
| 皮 膚 科 専 門 医 | 6 人 | 整形外科専門医 | 26 人 |
| 泌尿器科専門医 | 9 人 | 麻 酔 科 専 門 医 | 22 人 |
| 産婦人科専門医 | 18 人 | 救 急 科 専 門 医 | 10 人 |
| | | 合 計 | 288 人 |

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (古家 仁) 任命年月日 平成24年 4月 1日

医療安全推進室長 (平成21年4月1日～平成24年3月31日)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

| | 歯科等以外 | 歯科等 | 合計 |
|--------------|----------|--------|----------|
| 1日当たり平均入院患者数 | 779.0人 | 19.0人 | 798.1人 |
| 1日当たり平均外来患者数 | 2,223.0人 | 127.0人 | 2,350.6人 |
| 1日当たり平均調剤数 | 4,116.1剤 | | |
| 必要医師数 | 209.0人 | | |
| 必要歯科医師数 | 10.0人 | | |
| 必要薬剤師数 | 52.0人 | | |
| 必要(准)看護師数 | 479.0人 | | |

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

| 施設名 | 床面積 | 主要構造 | 設備概要 | | | |
|----------|---------------------------------|----------|---|--|---------|--|
| | | | 病床数 | 24床 | 心電計 | <input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無 |
| 集中治療室 | 580.06 m ² | 鉄筋コンクリート | 人工呼吸装置 その他の救急蘇生装置 | <input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無 | 心細動除去装置 | <input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無 |
| 無菌病室等 | [固定式の場合] 床面積 [移動式の場合] 台数 | | 263.60 m ² m ² | 病床数 21床 病床数 床 | | <input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無 |
| 医薬品情報管理室 | [専用室の場合] 床面積 [共用室の場合] 共用する室名 | | 67.90 m ² | | | |
| 化学検査室 | 194.60 m ² | 鉄筋コンクリート | (主な設備) | 尿検査システム等 | | |
| 細菌検査室 | 174.10 m ² | 鉄筋コンクリート | (主な設備) | 生化学自動分析システム等 | | |
| 病理検査室 | 176.70 m ² | 鉄筋コンクリート | (主な設備) | 検体搬送システム等 | | |
| 病理解剖室 | 226.20 m ² | 鉄筋コンクリート | (主な設備) | 電動解剖ノコクリーンカットシステム等 | | |
| 研究室 | 1,589.40 m ² | 鉄筋コンクリート | (主な設備) | 各種 実験・研究装置等 | | |
| 講義室 | 460.40 m ² | 鉄筋コンクリート | 室数 | 2室 | 収容定員 | 317人 |
| 図書室 | 1,303.10 m ² | 鉄筋コンクリート | 室数 | 5室 | 蔵書数 | 143,989冊程度 |

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

| | | | |
|------|-----------------------|----------|---------|
| 紹介率 | 92.70 % | 逆紹介率 | 87.90 % |
| 算出根拠 | A：紹介患者の数 | 19,165 人 | |
| | B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数 | 21,095 人 | |
| | C：救急用自動車によって搬入された患者の数 | 3,079 人 | |
| | D：初診の患者の数 | 23,994 人 | |

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

| 氏名 | 所属 | 委員長 (○を付す) | 選定理由 | 利害関係 | 委員の要件 該当状況 |
|-------|--------------------|---------------|--|--|---------------|
| 水本 一弘 | 和歌山県立医科大学 | ○ | 和歌山県立医科大学附属病院医療安全推進室長であり、医療にかかる安全に関する見識を有するため。 | <input type="checkbox"/> 有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無 | 1 |
| 加藤 高志 | 加藤高志法律事務所 | | 医療に関する訴訟経験が豊富であり、法律に関する見識を有するため。 | <input type="checkbox"/> 有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無 | 1 |
| 松井 忠昭 | ボランティアグループ ラポール | | 病院の状況への理解が深く、医療を受ける側の立場からの客観的意見を得られるため。 | <input type="checkbox"/> 有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無 | 2 |
| | | | | <input type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無 | |
| | | | | <input type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無 | |
| | | | | <input type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無 | |
| | | | | <input type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無 | |

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

| | |
|---------------|--|
| 委員名簿の公表の有無 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無 |
| 委員の選定理由の公表の有無 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無 |
| 公表の方法 | |
| 病院ホームページでの公表 | |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

| 医療技術名 | 取扱患者数 | 人 |
|---------------------|-------|---|
| 当該医療技術の概要 提供実績なし | | |
| 医療技術名 | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | |
| 医療技術名 | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | |
| 医療技術名 | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | |
| 医療技術名 | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | |
| 医療技術名 | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | |
| 医療技術名 | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | |
| 医療技術名 | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | |
| 医療技術名 | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | |

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

| | 疾患名 | 患者数 | | 疾患名 | 患者数 |
|----|----------------------------|-----|-----|----------------------|-----|
| 1 | 球脊髄性筋萎縮症 | 5 | 56 | ベーチェット病 | 29 |
| 2 | 筋萎縮性側索硬化症 | 43 | 57 | 特発性拡張型心筋症 | 89 |
| 3 | 脊髄性筋萎縮症 | 2 | 58 | 肥大型心筋症 | 31 |
| 4 | 原発性側索硬化症 | 1 | 59 | 拘束型心筋症 | 0 |
| 5 | 進行性核上性麻痺 | 16 | 60 | 再生不良性貧血 | 42 |
| 6 | パーキンソン病 | 249 | 61 | 自己免疫性溶血性貧血 | 4 |
| 7 | 大脳皮質基底核変性症 | 12 | 62 | 発作性夜間ヘモグロビン尿症 | 4 |
| 8 | ハンチントン病 | 6 | 63 | 特発性血小板減少性紫斑病 | 67 |
| 9 | 神経有棘赤血球症 | 0 | 64 | 血栓性血小板減少性紫斑病 | 3 |
| 10 | シャルコー・マリー・トゥース病 | 5 | 65 | 原発性免疫不全症候群 | 12 |
| 11 | 重症筋無力症 | 78 | 66 | IgA腎症 | 105 |
| 12 | 先天性筋無力症候群 | 0 | 67 | 多発性嚢胞腎 | 42 |
| 13 | 多発性硬化症／視神経脊髄炎 | 62 | 68 | 黄色靱帯骨化症 | 11 |
| 14 | 慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー | 22 | 69 | 後縦靱帯骨化症 | 52 |
| 15 | 封入体筋炎 | 4 | 70 | 広範脊柱管狭窄症 | 2 |
| 16 | クローウ・深瀬症候群 | 2 | 71 | 特発性大腿骨頭壊死症 | 65 |
| 17 | 多系統萎縮症 | 22 | 72 | 下垂体性ADH分泌異常症 | 18 |
| 18 | 脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。) | 82 | 73 | 下垂体性TSH分泌亢進症 | 1 |
| 19 | ライソゾーム病 | 6 | 74 | 下垂体性PRL分泌亢進症 | 15 |
| 20 | 副腎白質ジストロフィー | 0 | 75 | クッシング病 | 2 |
| 21 | ミトコンドリア病 | 8 | 76 | 下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症 | 0 |
| 22 | もやもや病 | 36 | 77 | 下垂体性成長ホルモン分泌亢進症 | 16 |
| 23 | プリオン病 | 2 | 78 | 下垂体前葉機能低下症 | 108 |
| 24 | 亜急性硬化性全脳炎 | 0 | 79 | 家族性高コレステロール血症(ホモ接合体) | 1 |
| 25 | 進行性多巣性白質脳症 | 0 | 80 | 甲状腺ホルモン不応症 | 0 |
| 26 | HTLV-1関連脊髄症 | 2 | 81 | 先天性副腎皮質酵素欠損症 | 2 |
| 27 | 特発性基底核石灰化症 | 0 | 82 | 先天性副腎低形成症 | 0 |
| 28 | 全身性アミロイドーシス | 16 | 83 | アジソン病 | 1 |
| 29 | ウルリッヒ病 | 0 | 84 | サルコイドーシス | 50 |
| 30 | 遠位型ミオパチー | 3 | 85 | 特発性間質性肺炎 | 28 |
| 31 | ベスレムミオパチー | 0 | 86 | 肺動脈性肺高血圧症 | 15 |
| 32 | 自己食空胞性ミオパチー | 0 | 87 | 肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症 | 0 |
| 33 | シュワルツ・ヤンペル症候群 | 0 | 88 | 慢性血栓塞栓性肺高血圧症 | 6 |
| 34 | 神経線維腫症 | 22 | 89 | リンパ脈管腫症 | 3 |
| 35 | 天疱瘡 | 16 | 90 | 網膜色素変性症 | 10 |
| 36 | 表皮水疱症 | 1 | 91 | バッド・キアリ症候群 | 3 |
| 37 | 膿疱性乾癬(汎発型) | 11 | 92 | 特発性門脈圧亢進症 | 1 |
| 38 | スティーヴンス・ジョンソン症候群 | 0 | 93 | 原発性胆汁性肝硬変 | 91 |
| 39 | 中毒性表皮壊死症 | 0 | 94 | 原発性硬化性胆管炎 | 6 |
| 40 | 高安動脈炎 | 22 | 95 | 自己免疫性肝炎 | 17 |
| 41 | 巨細胞性動脈炎 | 5 | 96 | クローン病 | 61 |
| 42 | 結節性多発動脈炎 | 9 | 97 | 潰瘍性大腸炎 | 171 |
| 43 | 顕微鏡的多発血管炎 | 46 | 98 | 好酸球性消化管疾患 | 3 |
| 44 | 多発血管炎性肉芽腫症 | 10 | 99 | 慢性特発性偽性腸閉塞症 | 0 |
| 45 | 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症 | 5 | 100 | 巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症 | 0 |
| 46 | 悪性関節リウマチ | 12 | 101 | 腸管神経節細胞僅少症 | 0 |
| 47 | パージャール病 | 14 | 102 | ルビンシュタイン・テイビ症候群 | 1 |
| 48 | 原発性抗リン脂質抗体症候群 | 2 | 103 | CFC症候群 | 0 |
| 49 | 全身性エリテマトーデス | 177 | 104 | コステロ症候群 | 0 |
| 50 | 皮膚筋炎／多発性筋炎 | 112 | 105 | チャージ症候群 | 0 |
| 51 | 全身性強皮症 | 85 | 106 | クリオピリン関連周期熱症候群 | 0 |
| 52 | 混合性結合組織病 | 31 | 107 | 全身型若年性特発性関節炎 | 0 |
| 53 | シェーグレン症候群 | 31 | 108 | TNF受容体関連周期性症候群 | 0 |
| 54 | 成人スチル病 | 7 | 109 | 非典型型溶血性尿毒症症候群 | 0 |
| 55 | 再発性多発軟骨炎 | 4 | 110 | ブラウ症候群 | 0 |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

| | 疾患名 | 患者数 | | 疾患名 | 患者数 |
|-----|----------------------------|-----|-----|--------------------|-----|
| 111 | 先天性ミオパチー | 1 | 161 | 家族性良性慢性天疱瘡 | 0 |
| 112 | マリネスコ・シェーグレン症候群 | 0 | 162 | 類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。) | 16 |
| 113 | 筋ジストロフィー | 31 | 163 | 特発性後天性全身性無汗症 | 2 |
| 114 | 非ジストロフィー性ミオトニー症候群 | 0 | 164 | 眼皮膚白皮症 | 2 |
| 115 | 遺伝性周期性四肢麻痺 | 0 | 165 | 肥厚性皮膚骨膜炎 | 0 |
| 116 | アトピー性脊髄炎 | 0 | 166 | 弾性線維性仮性黄色腫 | 0 |
| 117 | 脊髄空洞症 | 2 | 167 | マルファン症候群 | 2 |
| 118 | 脊髄髄膜瘤 | 0 | 168 | エーラス・ダンロス症候群 | 4 |
| 119 | アイザックス症候群 | 1 | 169 | メンケス病 | 0 |
| 120 | 遺伝性ジストニア | 0 | 170 | オクシピタル・ホーン症候群 | 0 |
| 121 | 神経フェリチン症 | 0 | 171 | ウィルソン病 | 1 |
| 122 | 脳表ヘモジデリン沈着症 | 0 | 172 | 低ホスファターゼ症 | 0 |
| 123 | 禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症 | 0 | 173 | VATER症候群 | 0 |
| 124 | 皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症 | 0 | 174 | 那須・ハコラ病 | 1 |
| 125 | 神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症 | 0 | 175 | ウィーバー症候群 | 0 |
| 126 | ペリー症候群 | 0 | 176 | コフィン・ローリー症候群 | 0 |
| 127 | 前頭側頭葉変性症 | 5 | 177 | 有馬症候群 | 0 |
| 128 | ピッカースタッフ脳幹脳炎 | 0 | 178 | モワット・ウィルソン症候群 | 0 |
| 129 | 痙攣重症型(二相性)急性脳症 | 1 | 179 | ウィリアムズ症候群 | 0 |
| 130 | 先天性無痛無汗症 | 0 | 180 | ATR-X症候群 | 0 |
| 131 | アレキサンダー病 | 0 | 181 | クルーゾン症候群 | 0 |
| 132 | 先天性核上性球麻痺 | 0 | 182 | アペール症候群 | 0 |
| 133 | メビウス症候群 | 0 | 183 | ファイファー症候群 | 0 |
| 134 | 中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群 | 0 | 184 | アントレー・ピクスラー症候群 | 0 |
| 135 | アイカルディ症候群 | 0 | 185 | コフィン・シリス症候群 | 0 |
| 136 | 片側巨脳症 | 0 | 186 | ロスムンド・トムソン症候群 | 0 |
| 137 | 限局性皮質異形成 | 1 | 187 | 歌舞伎症候群 | 0 |
| 138 | 神経細胞移動異常症 | 0 | 188 | 多脾症候群 | 0 |
| 139 | 先天性大脳白質形成不全症 | 0 | 189 | 無脾症候群 | 0 |
| 140 | ドラベ症候群 | 0 | 190 | 鰓耳腎症候群 | 1 |
| 141 | 海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん | 0 | 191 | ウェルナー症候群 | 0 |
| 142 | ミオクロニー欠神てんかん | 0 | 192 | コケイン症候群 | 0 |
| 143 | ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん | 0 | 193 | プラダー・ウィリ症候群 | 0 |
| 144 | レノックス・ガストー症候群 | 0 | 194 | ソトス症候群 | 0 |
| 145 | ウエスト症候群 | 2 | 195 | ヌーナン症候群 | 0 |
| 146 | 大田原症候群 | 0 | 196 | ヤング・シンプソン症候群 | 0 |
| 147 | 早期ミオクロニー脳症 | 0 | 197 | 1p36欠失症候群 | 0 |
| 148 | 遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん | 3 | 198 | 4p欠失症候群 | 0 |
| 149 | 片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群 | 0 | 199 | 5p欠失症候群 | 1 |
| 150 | 環状20番染色体症候群 | 1 | 200 | 第14番染色体父親性ダイソミー症候群 | 0 |
| 151 | ラスムッセン脳炎 | 0 | 201 | アンジェルマン症候群 | 0 |
| 152 | PCDH19関連症候群 | 0 | 202 | スミス・マギニス症候群 | 0 |
| 153 | 難治頻回部分発作重症型急性脳炎 | 0 | 203 | 22q11.2欠失症候群 | 0 |
| 154 | 徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症 | 1 | 204 | エマヌエル症候群 | 0 |
| 155 | ランドウ・クレフナー症候群 | 0 | 205 | 脆弱X症候群関連疾患 | 0 |
| 156 | レット症候群 | 0 | 206 | 脆弱X症候群 | 0 |
| 157 | スタージ・ウェーバー症候群 | 1 | 207 | 総動脈幹遺残症 | 0 |
| 158 | 結節性硬化症 | 1 | 208 | 修正大血管転位症 | 0 |
| 159 | 色素性乾皮症 | 1 | 209 | 完全大血管転位症 | 1 |
| 160 | 先天性魚鱗癬 | 2 | 210 | 単心室症 | 0 |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

| | 疾患名 | 患者数 | | 疾患名 | 患者数 |
|-----|------------------------------|-----|-----|----------------------------|-----|
| 211 | 左心低形成症候群 | 0 | 259 | レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症 | 0 |
| 212 | 三尖弁閉鎖症 | 0 | 260 | シトステロール血症 | 0 |
| 213 | 心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症 | 0 | 261 | タンジール病 | 0 |
| 214 | 心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症 | 0 | 262 | 原発性高カイロミクロン血症 | 0 |
| 215 | ファロー四徴症 | 0 | 263 | 脳腫黄色腫症 | 0 |
| 216 | 両大血管右室起始症 | 0 | 264 | 無βリポタンパク血症 | 0 |
| 217 | エプスタイン病 | 0 | 265 | 脂肪萎縮症 | 0 |
| 218 | アルポート症候群 | 0 | 266 | 家族性地中海熱 | 1 |
| 219 | ギャロウェイ・モワト症候群 | 0 | 267 | 高IgD症候群 | 0 |
| 220 | 急速進行性糸球体腎炎 | 3 | 268 | 中條・西村症候群 | 0 |
| 221 | 抗糸球体基底膜腎炎 | 2 | 269 | 化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群 | 0 |
| 222 | 一次性ネフローゼ症候群 | 77 | 270 | 慢性再発性多発性骨髄炎 | 0 |
| 223 | 一次性膜性増殖性糸球体腎炎 | 1 | 271 | 強直性脊椎炎 | 5 |
| 224 | 紫斑病性腎炎 | 7 | 272 | 進行性骨化性線維異形成症 | 0 |
| 225 | 先天性腎性尿崩症 | 0 | 273 | 肋骨異常を伴う先天性側弯症 | 0 |
| 226 | 間質性膀胱炎(ハンナ型) | 0 | 274 | 骨形成不全症 | 0 |
| 227 | オスラー病 | 1 | 275 | タナトフォリック骨異形成症 | 0 |
| 228 | 閉塞性細気管支炎 | 0 | 276 | 軟骨無形成症 | 0 |
| 229 | 肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性) | 0 | 277 | リンパ管腫症/ゴーハム病 | 0 |
| 230 | 肺胞低換気症候群 | 3 | 278 | 巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変) | 0 |
| 231 | α1-アンチトリプシン欠乏症 | 0 | 279 | 巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変) | 0 |
| 232 | カーニー複合 | 0 | 280 | 巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変) | 1 |
| 233 | ウォルフラム症候群 | 0 | 281 | クリッペル・トレノナー・ウェーバー症候群 | 0 |
| 234 | ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。) | 0 | 282 | 先天性赤血球形成異常性貧血 | 0 |
| 235 | 副甲状腺機能低下症 | 3 | 283 | 後天性赤芽球癆 | 1 |
| 236 | 偽性副甲状腺機能低下症 | 0 | 284 | ダイヤモンド・ブラックファン貧血 | 0 |
| 237 | 副腎皮質刺激ホルモン不応症 | 0 | 285 | ファンconi貧血 | 0 |
| 238 | ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症 | 0 | 286 | 遺伝性鉄芽球性貧血 | 0 |
| 239 | ビタミンD依存性くる病/骨軟化症 | 0 | 287 | エプスタイン症候群 | 0 |
| 240 | フェニルケトン尿症 | 0 | 288 | 自己免疫性出血病XIII | 10 |
| 241 | 高チロシン血症1型 | 0 | 289 | クロンカイト・カナダ症候群 | 0 |
| 242 | 高チロシン血症2型 | 0 | 290 | 非特異性多発性小腸潰瘍症 | 0 |
| 243 | 高チロシン血症3型 | 0 | 291 | ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸) | 0 |
| 244 | メーブルシロップ尿症 | 3 | 292 | 総排泄腔外反症 | 0 |
| 245 | プロピオン酸血症 | 0 | 293 | 総排泄腔遺残 | 0 |
| 246 | メチルマロン酸血症 | 0 | 294 | 先天性横隔膜ヘルニア | 0 |
| 247 | イソ吉草酸血症 | 0 | 295 | 乳幼児肝巨大血管腫 | 0 |
| 248 | グルコーストランスポーター1欠損症 | 0 | 296 | 胆道閉鎖症 | 1 |
| 249 | グルタル酸血症1型 | 0 | 297 | アラジール症候群 | 0 |
| 250 | グルタル酸血症2型 | 0 | 298 | 遺伝性膀胱炎 | 0 |
| 251 | 尿素サイクル異常症 | 0 | 299 | 嚢胞性線維症 | 0 |
| 252 | リジン尿性蛋白不耐症 | 0 | 300 | IgG4関連疾患 | 14 |
| 253 | 先天性葉酸吸収不全 | 0 | 301 | 黄斑ジストロフィー | 1 |
| 254 | ポルフィリン症 | 0 | 302 | レーベル遺伝性視神経症 | 0 |
| 255 | 複合カルボキシラーゼ欠損症 | 0 | 303 | アッシュャー症候群 | 0 |
| 256 | 筋型糖原病 | 0 | 304 | 若年発症型両側性感音難聴 | 0 |
| 257 | 肝型糖原病 | 1 | 305 | 遅発性内リンパ水腫 | 0 |
| 258 | ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症 | 0 | 306 | 好酸球性副鼻腔炎 | 1 |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

| | 疾患名 | 患者数 | | 疾患名 | 患者数 |
|-----|----------------------------------|-----|-----|-------------------------------|-----|
| 307 | カナバン病 | 0 | 319 | セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症 | 0 |
| 308 | 進行性白質脳症 | 0 | 320 | 先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症 | 0 |
| 309 | 進行性ミオクローヌステんかん | 0 | 321 | 非ケトーシス型高グリシン血症 | 0 |
| 310 | 先天異常症候群 | 0 | 322 | β ーケトチオラーゼ欠損症 | 0 |
| 311 | 先天性三尖弁狭窄症 | 0 | 323 | 芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症 | 0 |
| 312 | 先天性僧帽弁狭窄症 | 0 | 324 | メチルグルタコン酸尿症 | 0 |
| 313 | 先天性肺静脈狭窄症 | 0 | 325 | 遺伝性自己炎症疾患 | 0 |
| 314 | 左肺動脈右肺動脈起始症 | 0 | 326 | 大理石骨病 | 0 |
| 315 | ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症 | 0 | 327 | 特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。) | 4 |
| 316 | カルニチン回路異常症 | 0 | 328 | 前眼部形成異常 | 0 |
| 317 | 三頭酵素欠損症 | 0 | 329 | 無虹彩症 | 0 |
| 318 | シトリン欠損症 | 0 | 330 | 先天性気管狭窄症 | 0 |
| | | | 331 | 特発性多中心性キャッスルマン病 | 2 |

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

| 施設基準の種類 | 施設基準の種類 |
|------------------|--------------------|
| ・地域歯科診療支援病院歯科初診料 | ・ハイリスク分娩管理加算 |
| ・歯科外来診療環境体制加算2 | ・精神科救急搬送患者地域連携紹介加算 |
| ・歯科診療特別対応連携加算 | ・総合評価加算 |
| ・特定機能病院入院基本料7対1 | ・病棟薬剤業務実施加算 |
| ・超急性期脳卒中加算 | ・データ提出加算 |
| ・診療録管理体制加算 | ・入退院支援加算 |
| ・医師事務作業補助体制加算 | ・認知症ケア加算 |
| ・急性期看護補助体制加算 | ・精神疾患診療体制加算 |
| ・看護職員夜間配置加算 | ・救命救急入院料3及び4 |
| ・看護補助加算 | ・特定集中治療室管理料 |
| ・療養環境加算 | ・脳卒中ケアユニット入院医療管理料 |
| ・重症者等療養環境特別加算 | ・総合周産期特定集中治療室管理料 |
| ・無菌治療室管理加算 | ・新生児治療回復室入院医療管理料 |
| ・緩和ケア診療加算 | ・一類感染症患者入院医療管理料 |
| ・精神科応急入院施設管理加算 | ・小児入院医療管理料 |
| ・精神病棟入院時医学管理加算 | ・精神科救急入院料 |
| ・精神科身体合併症管理加算 | ・精神科救急・合併症入院料 |
| ・精神科リエゾンチーム加算 | ・ |
| ・摂食障害入院医療管理加算 | ・ |
| ・栄養サポートチーム加算 | ・ |
| ・医療安全対策加算 | ・ |
| ・感染防止対策加算 | ・ |
| ・抗菌薬適正使用支援加算 | ・ |
| ・患者サポート体制充実加算 | ・ |
| ・褥瘡ハイリスク患者ケア加算 | ・ |
| ・ハイリスク妊娠管理加算 | ・ |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

| 施設基準の種類 | 施設基準の種類 |
|------------------------------|--|
| ・ウイルス疾患指導料 | ・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査) |
| ・糖尿病合併症管理料 | ・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定) |
| ・がん性疼痛緩和指導管理料 | ・検体検査管理加算(I) |
| ・がん患者指導管理料 | ・検体検査管理加算(IV) |
| ・外来緩和ケア管理料 | ・国際標準検査管理加算 |
| ・移植後患者指導管理料 | ・遺伝カウンセリング加算 |
| ・糖尿病透析予防指導管理料 | ・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト |
| ・乳腺炎重症化予防ケア・指導料 | ・胎児心エコー法 |
| ・外来放射線照射診療料 | ・ヘッドアップティルト試験 |
| ・療養・就労両立支援指導料 | ・皮下連続式グルコース測定 |
| ・ハイリスク妊産婦共同管理料(I) | ・長期継続頭蓋内脳波検査 |
| ・がん治療連携計画策定料 | ・長期脳波ビデオ同時記録検査1 |
| ・排尿自立指導料 | ・光トポグラフィ |
| ・ハイリスク妊産婦連携指導料1 | ・脳波検査判断料1 |
| ・ハイリスク妊産婦連携指導料2 | ・神経学的検査 |
| ・肝炎インターフェロン治療計画料 | ・補聴器適合検査 |
| ・薬剤管理指導料 | ・ロービジョン検査判断料 |
| ・医療機器安全管理料1 | ・小児食物アレルギー負荷検査 |
| ・医療機器安全管理料2 | ・内服・点滴誘発試験 |
| ・医療機器安全管理料(歯科) | ・センチネルリンパ節生検(片側) |
| ・総合医療管理加算(歯科疾患管理料) | ・有床義歯咀嚼機能検査、咀嚼能力検査及び咬合圧検査 |
| ・在宅患者訪問看護・指導料 | ・精密触覚機能検査 |
| ・遠隔モニタリング加算(在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料) | ・画像診断管理加算1 |
| ・在宅経肛門の自己洗腸指導管理料 | ・画像診断管理加算2 |
| ・持続血糖測定器加算 | ・遠隔画像診断 |
| ・骨髄微小残存病変量測定 | ・ホントロン断層撮影、ホントロン断層・コンピューター断層複合撮影、ホントロン断層・磁気共鳴コンピューター断層複合撮影又は乳房用ボントロン断層撮影 |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

| 施設基準の種類 | 施設基準の種類 |
|---|--|
| ・CT撮影及びMRI撮影 | ・エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの) |
| ・冠動脈CT撮影加算 | ・人工腎臓 |
| ・外傷全身CT加算 | ・人工脾臓療法 |
| ・心臓MRI撮影加算 | ・CAD/CAM冠 |
| ・乳房MRI撮影加算 | ・有床義歯修理及び有床義歯内面適合法の歯科技工加算 |
| ・小児鎮静下MRI撮影加算 | ・皮膚悪性腫瘍切除術(センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。) |
| ・抗悪性腫瘍剤処方管理加算 | ・皮膚移植術(死体) |
| ・外来化学療法加算1 | ・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。) |
| ・無菌製剤処理料 | ・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。))) |
| ・心大血管疾患リハビリテーション料(I) | ・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。) |
| ・脳血管疾患等リハビリテーション料(I) | ・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの) |
| ・運動器リハビリテーション料(I) | ・脳腫瘍覚醒下マッピング加算 |
| ・呼吸器リハビリテーション料(I) | ・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術 |
| ・がん患者リハビリテーション料 | ・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術 |
| ・歯科口腔リハビリテーション料2 | ・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術) |
| ・児童思春期精神科専門管理加算 | ・人工中耳植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術 |
| ・救急患者精神科継続支援料 | ・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術) |
| ・認知療法・認知行動療法 | ・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。) |
| ・精神科作業療法 | ・乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1又は乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。) |
| ・精神科ショート・ケア「大規模なもの」 | ・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの)) |
| ・精神科ショート・ケア「小規模なもの」 | ・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後) |
| ・精神科デイ・ケア「大規模なもの」 | ・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。) |
| ・精神科デイ・ケア「小規模なもの」 | ・内視鏡下筋層切開術 |
| ・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。) | ・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの) |
| ・医療保護入院等診療料 | ・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの) |
| ・硬膜外自家血注入 | ・経カテーテル大動脈弁置換術 |
| ・エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの) | ・経皮的中心隔心筋焼灼術 |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

| 施設基準の種類 | 施設基準の種類 |
|---|--|
| ・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 | ・腹腔鏡下仙骨腫固定術 |
| ・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー) | ・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) |
| ・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術 | ・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。) |
| ・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術 | ・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。) |
| ・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術 | ・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合) |
| ・大動脈バルーンパンピング法(IABP法) | ・胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。) |
| ・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの) | ・輸血管理料 I |
| ・補助人工心臓 | ・貯血式自己血輸血管理体制加算 |
| ・腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) | ・自己生体組織接着剤作成術 |
| ・腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) | ・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算 |
| ・腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) | ・広範囲顎骨支持型装置埋入手術 |
| ・バルーン閉塞下(逆行性)経静脈的塞栓術 | ・麻酔管理料(I) |
| ・胆管悪性腫瘍手術(嚙頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。) | ・麻酔管理料(II) |
| ・腹腔鏡下肝切除術 | ・放射線治療専任加算 |
| ・生体部分肝移植術 | ・外来放射線治療加算 |
| ・腹腔鏡下膝腫瘍摘出術及び腹腔鏡下膝体尾部腫瘍切除術 | ・高エネルギー放射線治療 |
| ・腹腔鏡下嚙頭十二指腸切除術 | ・1回線量増加加算 |
| ・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術 | ・強度変調放射線治療(IMRT) |
| ・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの) | ・画像誘導放射線治療加算 (IGRT) |
| ・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの) | ・体外照射呼吸性移動対策加算 |
| ・同種死体腎移植術 | ・定位放射線治療 |
| ・生体腎移植術 | ・定位放射線治療呼吸性移動対策加算 |
| ・膀胱水圧拡張術 | ・画像誘導密封小線源治療加算 |
| ・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術 | ・保険医療機関間の連携による病理診断 |
| ・人工尿道括約筋植込・置換術 | ・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製 |
| ・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの) | ・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診 |

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 | |
|---|--------|---------------|-----------|----------|-------|
| DNA損傷特異抗体を損傷除去修復薬に進化させる | 森 俊雄 | 放射線腫瘍医学 | 5,460,000 | 補委 | 文部科学省 |
| Flt-1系を介する心腎連関分子機序の解明：新規LncRNAの関与 | 斎藤 能彦 | 循環器内科学 | 2,470,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 自閉スペクトラム症における前頭前野機能の多面的解析とその正常化への試み | 牧之段 学 | 精神医学 | 5,070,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 膝島の生体内リプログラミング技術を用いた糖尿病の新規治療法の開発 | 山田 高嗣 | 消化器・総合外科学 | 3,770,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 血友病A分子病態の解明と第VIII因子高機能化に関する研究 | 嶋 緑倫 | 小児科学 | 5,590,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 多次元解析による神経性無食欲症のサイコバイオティクスの同定：治療薬の創発に向けて | 岸本 年史 | 精神医学 | 3,250,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 高LET放射線と抗VEGF抗体の併用によるグリオーマ幹細胞制御機構の解明 | 長谷川 正俊 | 放射線腫瘍医学 | 4,810,000 | 補委 | 文部科学省 |
| EGFRvIII特異的CAR発現iPS由来NK細胞を用いた膠芽腫治療の基盤的研究 | 中瀬 裕之 | 脳神経外科学 | 7,670,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 重症脊髄損傷に対する自家組織細胞シートを用いた新規再生医療技術の開発 | 田中 康仁 | 整形外科 | 780,000 | 補委 | 文部科学省 |
| Translational applications of broad spectrum natural compounds and phytochemicals or their derivatives to the | 朴木 寛弥 | 整形外科 | 910,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 専門プログラムを用いた発達障害児支援者養成システム作りに関する研究 | 岩坂 英巳 | 精神医学 | 1,170,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 簡便かつ安全に実施可能な術後静脈血栓塞栓症の管理基準の確立 | 川口 龍二 | 産婦人科学 | 1,300,000 | 補委 | 文部科学省 |
| ヒトとマウスの気腔形態評価指標の比較から推察するCOPDエンドタイプ | 室 繁郎 | 呼吸器内科学 | 1,560,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 呼吸波形解析を活用した新たなCOPD治療戦略の構築 ―呼吸の安定化を目指して― | 藤田 幸男 | 呼吸器内科学 | 1,040,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 慢性閉塞性肺疾患の新規治療戦略：全身性炎症の抑制をめざして | 吉川 雅則 | 栄養管理部 | 1,170,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 希少難治性筋疾患におけるオートファジーを介した蛋白分解機構と病態機序の解明 | 杉江 和馬 | 神経内科学 | 1,300,000 | 補委 | 文部科学省 |
| Thrombopasを用いた新生児PC制御機構の解明と新たな治療法の開発 | 中川 隆志 | 総合周産期母子医療センター | 1,430,000 | 補委 | 文部科学省 |
| VWF/ADAMTS-13/FVIII制御軸による極低出生体重児の脳室内出血の病態解明 | 西久保 敏也 | 総合周産期母子医療センター | 650,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 次世代の薬剤誘発リンパ球刺激試験の開発 | 小豆澤 宏明 | 皮膚科学 | 910,000 | 補委 | 文部科学省 |
| シナプスブルーニング仮説に基づくiPS細胞由来神経培養系での統合失調症病態解明 | 鳥塚 通弘 | 精神医学 | 1,430,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 社会経験で発達する前頭前野の局所的興奮・抑制性回路は治療ターゲットになるか | 芳野 浩樹 | 精神医学 | 1,300,000 | 補委 | 文部科学省 |
| ユビキチン修飾系異常を介した癌進展機序の包括的解明と新規癌治療法の開発 | 右田 和寛 | 消化器・総合外科学 | 1,560,000 | 補委 | 文部科学省 |
| T細胞不活化経路をターゲットとする大腸癌肝転移の新規免疫療法の開発 | 北東 大督 | 消化器・総合外科学 | 1,560,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 肝切除後肝不全におけるADAMTS13の関与及び新規肝不全治療戦略の確立 | 野見 武男 | 消化器・総合外科学 | 1,560,000 | 補委 | 文部科学省 |
| Myosteatosi sの病態解明による膝癌新規集学的治療戦略の開発 | 赤堀 宇広 | 消化器・総合外科学 | 1,820,000 | 補委 | 文部科学省 |
| ゼラチンシートの開発 | 谷口 繁樹 | 胸部・心臓血管外科学 | 1,560,000 | 補委 | 文部科学省 |

小計 26

| | | | | | |
|---|--------|---------------|-----------|----|-------|
| ミトコンドリアKATPチャンネルを介した虚血耐性現象のメカニズム | 中川 一郎 | 脳神経外科学 | 260,000 | 補委 | 文部科学省 |
| EGFRvIII特異的CAR導入免疫細胞を用いた膠芽腫治療法の開発 | 西村 文彦 | 脳神経外科学 | 1,170,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 超免疫不全マウスを用いた膠芽腫に対する免疫細胞およびPD-1阻害薬併用療法の開発 | 松田 良介 | 脳神経外科学 | 910,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 術中皮質脳波におけるセボフルラン濃度切替・高周波振動はてんかん焦点を推定可能か | 田村 健太郎 | 脳神経外科学 | 650,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 頭部外傷に対するミノサイクリンの脳への直接投与の有効性についての検討 | 恵川 淳二 | 中央手術部 | 1,690,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 膀胱癌細胞ミトコンドリア内における鉄利用メカニズムの解明とその臨床応用 | 中井 靖 | 泌尿器科学 | 1,690,000 | 補委 | 文部科学省 |
| マクロファージの内在性レトロウイルス応答調節と血管保護による多発性嚢胞腎進展抑制 | 石橋 道男 | 泌尿器科学 | 130,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 炎症惹起因子を中心とした妊娠高血圧症候群の病態解明 | 成瀬 勝彦 | 産婦人科学 | 650,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 受容体を覆う「バンドエイド型」次世代ペプチド薬を用いた卵巣がん治療 | 吉田 昭三 | 産婦人科学 | 1,300,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 子宮体部病変に対する極細複合型光ファイバー内視鏡診断と治療法の確立 | 重富 洋志 | 産婦人科学 | 1,170,000 | 補委 | 文部科学省 |
| MRスペクトロスコピーを用いた鉄濃度測定による子宮内膜症発癌リスクの新たな評価法 | 吉元 千陽 | 総合周産期母子医療センター | 1,040,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 妊娠中における騒音ならびに分子標的薬の胎児聴覚への影響 | 成尾 一彦 | 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 | 650,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 重度平衡障害者に対する感覚代行リハビリテーションの持越し効果とその実用化 | 山中 敏彰 | めまいセンター | 1,170,000 | 補委 | 文部科学省 |
| スポーツの種類や選手個人の特性を考慮した重力感受性トレーニング法の開発 | 和田 佳郎 | 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 | 1,560,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 放射線治療の業務の標準的な見える化と遠隔での安全な治療実施支援法の確立 | 玉本 哲郎 | 医療情報部 | 1,950,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 多系統萎縮症に合併する睡眠呼吸障害の多様性—呼吸管理から生命予後改善をめざす— | 山内 基雄 | 呼吸器内科学 | 1,430,000 | 補委 | 文部科学省 |
| Drug repositioning による肝疾患進展抑制治療法の開発 | 吉治 仁志 | 第三内科学 | 1,300,000 | 補委 | 文部科学省 |
| NASH発症進展に関わる腸内細菌の影響とエクオールの効果 | 野口 隆一 | 第三内科学 | 1,560,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 重症大動脈弁狭窄症に合併する消化管出血のフォンビレブランド因子による病態解析 | 早川 正樹 | 輸血部 | 1,820,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 肺線維症合併肺癌に対する制御性T細胞を標的とした新たな治療戦略の探索 | 本津 茂人 | 呼吸器内科学 | 1,040,000 | 補委 | 文部科学省 |
| APCおよびPSによる第VIII因子制御機構の解明および新規血友病製剤への応用 | 武山 雅博 | 小児科学 | 1,170,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 血流下での血管内皮細胞の応答機構と血液凝固第VIII因子の機能発現 | 志田 泰明 | 小児科学 | 1,170,000 | 補委 | 文部科学省 |
| フォン・ウィルブランド因子D' D3ドメイン—塩基多型の分子生物学的解析 | 萩原 建一 | 小児科学 | 1,430,000 | 補委 | 文部科学省 |
| ウイルス由来microRNAに着目したDIHSの病態解明と新規診断法の開発 | 浅田 秀夫 | 皮膚科学 | 1,430,000 | 補委 | 文部科学省 |
| ナノドラッグデリバリーシステムと分子イメージングを融合させた新規IVR治療の開発 | 西尾福 英之 | 放射線医学 | 1,820,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 前頭眼野 (FEF) 刺激による術中誘発眼球運動モニタリング (PEEM) の開発 | 本山 靖 | 脳卒中センター | 650,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 骨癒合性を付与したPEEK製脊椎インプラントの研究 | 古川 彰 | 整形外科 | 1,560,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 生体内誘導骨形成膜とハイブリッド人工骨の融合による新規骨再建法の開発 | 河村 健二 | 玉井進記念四肢外傷センター | 1,300,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 障害骨組織における再生遺伝子Regの発現動態の解析および骨再生促進法の開発 | 藤間 保晶 | 整形外科 | 1,300,000 | 補委 | 文部科学省 |

| | | | | | |
|--|--------|-------------|-----------|------|-------|
| 細胞外マトリックス (ECM) シートを用いた難治性偽関節の低侵襲治療法の開発 | 面川 庄平 | 手の外科講座 | 1,300,000 | (補委) | 文部科学省 |
| 膀胱における尿再吸収機構の解明 -夜間頻尿治療への応用を目指す研究- | 鳥本 一匡 | 泌尿器科学 | 1,430,000 | (補委) | 文部科学省 |
| HE4とTFPI2の組み合わせによる卵巣明細胞癌早期発見法 | 新納 恵美子 | 産婦人科学 | 1,040,000 | (補委) | 文部科学省 |
| 軟骨伝導補聴器のハウリングのメカニズムの解明とその防止 | 西村 忠己 | 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 | 1,430,000 | (補委) | 文部科学省 |
| 耳鳴発生時の内耳細胞内分子動態の解明と内耳を舞台とした新規治療法の開発 | 北原 紘 | 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 | 1,300,000 | (補委) | 文部科学省 |
| 頭頸部がん微小環境におけるがん幹細胞のEMTを介した浸潤・転移機構の解明 | 太田 一郎 | 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 | 1,560,000 | (補委) | 文部科学省 |
| 再発頭頸部癌に対する硼素中性子捕捉療法標準治療化におけるバイオマーカーの探索 | 上村 裕和 | 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 | 1,690,000 | (補委) | 文部科学省 |
| ラマン分光法を用いた新たな早期口腔癌診断システムの開発 | 松末 友美子 | 口腔外科学 | 1,560,000 | (補委) | 文部科学省 |
| 口腔がんに対するリンパ球と分子標的薬を併用した新規免疫細胞療法の確立 | 玉置 盛浩 | 口腔外科学 | 1,300,000 | (補委) | 文部科学省 |
| 膀胱癌特異的なマイクロRNAおよび遺伝子発現機序に基づいた病理組織学的診断の確立 | 藤井 智美 | 病理診断学 | 2,080,000 | (補委) | 文部科学省 |
| 癌の増大と転移へのADAMTS13/VWF 因子の影響 | 西尾 健治 | 総合医療学 | 1,300,000 | (補委) | 文部科学省 |
| 自閉スペクトラム症におけるM2マクロファージ機能不全に着目した病態解明 | 山内 崇平 | 精神医学 | 1,300,000 | (補委) | 文部科学省 |
| 切除不能・再発膀胱癌に対するミセル化ナノ粒子を用いた膀胱動注療法開発 | 田中 利洋 | 放射線医学 | 1,170,000 | (補委) | 文部科学省 |
| 中等症・軽症血友病Aにおける第Ⅷ因子の凝血学的特性に基づく新規治療戦略の開発 | 矢田 弘史 | 寄附講座血友病教育講座 | 2,210,000 | (補委) | 文部科学省 |
| 血液凝固における第Ⅷ因子制御軸の解明と血友病A及び血栓性疾患の新規治療薬への応用 | 野上 恵嗣 | 小児科学 | 2,340,000 | (補委) | 文部科学省 |
| 心筋疾患に対する新たな臨床応用可能な核酸医療薬の開発と評価 | 尾上 健児 | 循環器内科学 | 1,430,000 | (補委) | 文部科学省 |
| 慢性腎臓病高齢者を対象とした認知機能障害と動脈硬化に関する縦断的コホート研究 | 鶴屋 和彦 | 腎臓内科学 | 1,560,000 | (補委) | 文部科学省 |
| トリプルネガティブ乳癌における新規免疫不活化経路阻害分子探索および治療への展望 | 池田 直也 | 消化器・総合外科学 | 1,430,000 | (補委) | 文部科学省 |
| 脱細胞化マトリックスを用いた幹細胞由来肺細胞分化誘導と肺再生医療への応用 | 河合 紀和 | 胸部・心臓血管外科学 | 1,430,000 | (補委) | 文部科学省 |
| 肺癌手術症例における hybrid E/Mの臨床病理学的探索 | 安川 元章 | 胸部・心臓血管外科学 | 910,000 | (補委) | 文部科学省 |
| 胸部大動脈人工血管置換術中のレーザースペックルフローグラフィによる眼血流測定 | 林 浩伸 | 麻酔科学 | 1,820,000 | (補委) | 文部科学省 |
| スーパーオキシドリッチ環境が脳虚血再還流に与える影響 | 井上 聡己 | 集中治療部 | 1,170,000 | (補委) | 文部科学省 |
| CD44のバリエーションアイソフォームをターゲットとした子宮内膜症の新規治療法の確立 | 小川 憲二 | 産婦人科学 | 2,210,000 | (補委) | 文部科学省 |
| 細胞周期監視機構を標的とした難治卵巣明細胞癌の新規治療法の開発 | 棚瀬 康仁 | 産婦人科学 | 2,340,000 | (補委) | 文部科学省 |
| 子宮内膜症の微小環境における酸化還元反応のバランス変化に基づく発癌仮説の構築 | 山田 有紀 | 産婦人科学 | 1,560,000 | (補委) | 文部科学省 |
| メニエール病診断法の開発-内リンパ水腫の新しい評価法の確立- | 北野 公一 | 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 | 3,120,000 | (補委) | 文部科学省 |
| 新規耳鳴治療のための耳鳴動物実験モデルの確立 | 山下 哲範 | 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 | 1,430,000 | (補委) | 文部科学省 |
| 眼の加齢性変化と全身因子、生活環境、QOL | 緒方 奈保子 | 眼科学 | 1,690,000 | (補委) | 文部科学省 |
| 口腔癌における反復配列RNAの発現と機能の解明 | 山本 一彦 | 口腔外科学 | 1,820,000 | (補委) | 文部科学省 |

| | | | | | |
|---|--------|-------------|-----------|----|-------|
| 即時荷重インプラントの荷重下で生じるマイクロモーションの定量的予測と最適治療指針 | 杉浦 勉 | 口腔外科学 | 1,820,000 | 補委 | 文部科学省 |
| MIA2関連シグナルを標的とした口腔癌の分子診断・治療の新展開 | 栗原 都 | 口腔外科学 | 1,820,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 顎顔面の形態発生を制御する新規シグナル伝達機構 | 川上 正良 | 口腔外科学 | 1,170,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 骨転移を有する長期生存がん患者・悪性骨腫瘍患者の身体活動量維持プログラムの開発 | 城戸 颯 | リハビリテーション科 | 1,690,000 | 補委 | 文部科学省 |
| エピジェネティックアプローチによる肝線維化治療の開発 | 鍛冶 孝祐 | 第三内科学 | 650,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 統合失調症の認知矯正療法による脳の白質微細構造および機能的結合の変化に関する検討 | 松田 康裕 | 精神医学 | 1,040,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 新期薬剤溶出型バイオカバードステントの開発 | 市橋 成夫 | 放射線医学 | 650,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 脳静脈虚血における内因性神経幹細胞応用の基盤研究 | 竹島 靖浩 | 脳神経外科学 | 1,170,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 抗癌剤治療中における味覚障害発生機序の解明と有効な治療法の開発 | 山本 育功美 | 口腔外科学 | 650,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 細胞シート工学を応用した乳歯歯髄幹細胞による唇顎口蓋裂患者の新規顎裂治療法の開発 | 柳生 貴裕 | 口腔外科学 | 780,000 | 補委 | 文部科学省 |
| アルツハイマー型認知症に伴う精神症状に関するドーパミン・セロトニン神経の統合的検討 | 松岡 究 | 精神医学 | 1,040,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 統合失調症の脳神経スパイン密度低下におけるRNA結合タンパク質の制御機構の解明 | 紀本 創兵 | 精神医学 | 1,950,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 心的外傷後ストレス障害におけるマイクログリア由来BDNFの多角的解析 | 井川 大輔 | 精神医学 | 2,080,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 肝細胞癌に対するTACEにおけるSPG膜乳化新規W/Oエマルジョンの開発 | 正田 哲也 | 放射線医学 | 1,430,000 | 補委 | 文部科学省 |
| リポソームを用いた腎毒性を低減させる新規造影剤の開発 | 越智 朋子 | 放射線医学 | 2,080,000 | 補委 | 文部科学省 |
| FFFビームによる高線量率外部照射における治療効果の検討 | 藤谷 信将 | 中央放射線部 | 1,430,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 超音波弾性画像を用いた動注化学療法に対する抗腫瘍対効果判定の基礎研究 | 太地 良佑 | 放射線医学 | 2,210,000 | 補委 | 文部科学省 |
| EPA・DHA、スタチンの脳静脈灌流障害による脳梗塞進展抑制効果の検討 | 輪島 大介 | 脳神経外科学 | 1,690,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 麻酔関連薬剤の長時間曝露が口腔癌細胞の生存に影響を与えるか？ | 西和田 忠 | 集中治療部 | 1,170,000 | 補委 | 文部科学省 |
| めまい平衡障害モデルマウスの開発と平衡リハビリテーションへの応用 | 伊藤 妙子 | 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 | 910,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 早期緑内障と生体リズムに関する大規模コホート研究 | 宮田 季美恵 | 眼科学 | 1,300,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 急性呼吸促進症候群におけるヒストンメチル化酵素Setdb2の役割と臨床的意義 | 園部 奨太 | 集中治療部 | 1,430,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 顎骨における放射線性骨壊死の制御を目的とした間葉系幹細胞の研究 | 上山 善弘 | 口腔外科学 | 260,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 前腕骨における骨折・脱臼と靭帯損傷の関連 | 速水 直生 | 整形外科 | 1,040,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 日本人糖尿病患者における低用量アスピリン療法の発癌抑制効果に関する研究 | 岡田 定規 | 臨床研修センター | 650,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 重症脊髄損傷に対するナノテクノロジーと細胞シート工学のハイブリッド治療法の開発 | 奥田 哲教 | 救急医学 | 1,560,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 間歇的低酸素によるアディポカイン発現とその分子機構の解明 | 内山 智子 | 病理診断学 | 2,600,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 肺腫瘍間質における弾性線維合成機序の解明 | 中井 登紀子 | 病理診断学 | 1,690,000 | 補委 | 文部科学省 |
| ビーズTAE後の血行動態の解明とパラメトリックイメージングによる効果判定の確立 | 南口 貴世介 | 放射線医学 | 2,080,000 | 補委 | 文部科学省 |

| | | | | | |
|--|--------|--------------------|-----------|----|-------|
| 世界初の酸化的DNA損傷抗体を用いた肝動脈化学塞栓術におけるDNA損傷蓄積の評価 | 立元 将太 | 放射線医学 | 1,820,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 凍結肩に対する新規侵襲治療に関する研究：作用機序の解明と効果の画像評価法の確立 | 田口 秀彦 | 放射線医学 | 2,340,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 川崎病の病態・合併症におけるVWF-ADAMTS13軸の解明及び新規治療薬の開発 | 辻井 信之 | 小児科学 | 1,040,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 包括的凝固線溶ダイナミクス解析を基盤とする播種性血管内凝固の新規診断法の確立 | 大西 智子 | 小児科学 | 1,300,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 肝癌に対するSulforaphaneの抗腫瘍効果の検討 | 佐藤 慎哉 | 第三内科学 | 1,560,000 | 補委 | 文部科学省 |
| NASHに対する胆汁酸受容体TGR5の活性化と既存薬剤を応用した新規治療法の開発 | 賀屋 大介 | 第三内科学 | 1,950,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 慢性腎臓病におけるP1GFとsFlt-1の発現不均衡に関する機序の解明 | 中田 康紀 | 循環器内科学 | 2,470,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 心臓局所のネプリライシンがANP系のパラクライン作用を減弱する機序の解明 | 中川 仁 | 循環器内科学 | 1,560,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 脈波自由行動下血圧計による冬季入浴中の血圧の実態調査 | 田井 義彬 | 総合医療学 | 1,170,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 糖尿病におけるマクロファージによる尿細管障害とアルブミン再吸収障害の機序の解明 | 江里口 雅裕 | 腎臓内科学 | 1,690,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 糖尿病性腎症での腎組織内小血管病変と大血管病である心血管イベントとの関連の検討 | 鮫島 謙一 | 腎臓内科学 | 2,730,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 新規抗動脈硬化因子可溶性Flt-1による腎硬化症の発症機序解明と臨床的展開 | 松井 勝 | 腎臓内科学 | 1,690,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 分子標的治療薬による皮膚障害における表皮自然免疫応答の研究 | 御守 里絵 | 皮膚科学 | 2,470,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 大腸内視鏡的粘膜下層剥離術における遊離腫瘍細胞と局所再発に関する研究 | 井上 隆 | 中央内視鏡部 | 1,560,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 疼痛鈍麻の表現型を示す遺伝子改変マウスの包括的遺伝子解析から新たな疼痛因子を探る | 新城 武明 | 中央手術部 | 2,080,000 | 補委 | 文部科学省 |
| PD-1遺伝子破壊EGFRvIII特異的CAR-T細胞による膠芽腫治療法の開発 | 中澤 務 | 脳神経外科学 | 2,210,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 間葉系幹細胞の酸素濃度変化に着目した変形性膝関節症の病態解明 | 稲垣 有佐 | 寄附講座人工関節・骨軟骨再生医学講座 | 3,510,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 間葉系幹細胞シートと組織移植を融合させたハイブリッド型自家神経作成の試み | 清水 隆昌 | 整形外科 | 1,040,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 高度前庭障害に対する多能性幹細胞を用いた細胞移植治療の開発 | 阪上 雅治 | 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 | 3,120,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 即時荷重インプラントオーバーデンチャーにおける微小動揺の予測とプロトコルの確立 | 堀田 聡 | 口腔外科学 | 1,950,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 核-細胞間輸送に関与する受容体を標的とした口腔がん治療の基礎研究 | 仲川 洋介 | 口腔外科学 | 1,430,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 全診療報酬情報を用いた糖尿病診療の時空間疫学分析 | 西岡 祐一 | 糖尿病学講座 | 1,820,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 呼吸停止時の人工赤血球の有用性の検討 | 内藤 祐介 | 麻酔科学 | 1,170,000 | 補委 | 文部科学省 |
| ヒトiPS細胞からの中脳オルガノイド作製手法の確立 | 七浦 仁紀 | 脳神経内科学 | 1,560,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 心臓交感神経イメージング法を用いた右心不全に対する治療効果判定および予後評価 | 笠間 周 | 臨床研究センター | 1,820,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 眼球運動解析に基づいた情動-姿勢制御に関与する神経機構の解明 | 清水 直樹 | 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 | 1,040,000 | 補委 | 文部科学省 |
| piRNAをガイドとしたレトロトランスポゾン・遺伝子発現制御機構の解析 | 能村 卓慈 | 小児科学 | 1,560,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 骨髄由来免疫抑制細胞と卵巣癌幹細胞による癌免疫逃避機構の解明とその克服 | 馬淵 誠士 | 産婦人科学 | 1,690,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 成人の侵襲性細菌感染症サーベイランスの構築に関する研究 | 笠原 敬 | 感染症センター | 400,000 | 補委 | 厚生労働省 |

| | | | | | |
|---|--------|----------------------|------------|----|---------------------|
| 重症多形滲出性紅斑に関する調査研究 | 浅田 秀夫 | 皮膚科学 | 1,000,000 | 補委 | 厚生労働省 |
| 血液凝固異常症等に関する研究 | 松本 雅則 | 輸血部 | 1,400,000 | 補委 | 厚生労働省 |
| 特発性心筋症に関する調査研究 | 斎藤 能彦 | 循環器内科学 | 350,000 | 補委 | 厚生労働省 |
| スモンに関する調査研究 | 杉江 和馬 | 神経内科学 | 600,000 | 補委 | 厚生労働省 |
| 希少難治性筋疾患に関する調査研究 | 杉江 和馬 | 神経内科学 | 1,300,000 | 補委 | 厚生労働省 |
| 持続陽圧(CPAP, ASV)治療管理開始時からの治療状況確認と自己学習を含めた患者・医療機関相互方向の遠隔医療の試み | 吉川 雅則 | 栄養管理部 | 150,000 | 補委 | 厚生労働省 |
| 難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究 | 吉川 雅則 | 栄養管理部 | 100,000 | 補委 | 厚生労働省 |
| 早老症の医療水準やQOL向上を目指す集学的研究 | 谷口 晃 | 整形外科 | 200,000 | 補委 | 厚生労働省 |
| 難治性聴覚障害に関する調査研究 | 北原 紘 | 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 | 500,000 | 補委 | 厚生労働省 |
| 機械的補助循環に合併する後天性von Willebrand症候群の治療法の開発 | 松本 雅則 | 輸血部 | 13,260,000 | 補委 | 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 |
| 重症薬疹関連書類の作成、臨床試料収集と関連解析 | 浅田 秀夫 | 皮膚科学 | 4,030,000 | 補委 | 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 |
| 自然抗凝固因子異常症とその効果的モニタリング法に関する研究 | 嶋 緑倫 | 小児科学 | 500,000 | 補委 | 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 |
| 自然抗凝固因子異常症とその効果的モニタリング法に関する研究 | 西久保 敏也 | 総合周産期母子医療センター (NICU) | 500,000 | 補委 | 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 |
| VWF多量体解析等の血栓止血学的解析 | 松本 雅則 | 輸血部 | 702,000 | 補委 | 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 |
| 機能獲得変異の病態機能解析 | 野上 恵嗣 | 小児科学 | 1,560,000 | 補委 | 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 |
| アルブミン製剤の適正使用法の策定 | 松本 雅則 | 輸血部 | 140,000 | 補委 | 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 |
| CRにおけるメタ認知や内発的動機付けに焦点を絞ったグループセッションの開発およびマニュアル作成と普及 | 松田 康裕 | 精神医学 | 500,000 | 補委 | 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 |
| 奈良県における児童・思春期の心の健康づくりと地域連携モデルの構築 | 岸本 年史 | 精神医学 | 900,000 | 補委 | 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 |
| 腎機能不良・腎透析症例に対する抗HCV療法 | 鶴屋 和彦 | 腎臓内科学 | 200,000 | 補委 | 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 |
| 心不全の発症・重症化の高精度予測とそれに基づく最適な治療戦略の開発 | 川上 利香 | 循環器内科学 | 1,001,000 | 補委 | 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 |
| 次世代血友病治療をめざしたタンパク質設計と多面的アウトカム評価解析 | 嶋 緑倫 | 小児科学 | 16,900,000 | 補委 | 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 |
| aHUSの蛋白質学的診断法の樹立 | 松本 雅則 | 輸血部 | 780,000 | 補委 | 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 |
| マルチオミックス連関による循環器疾患における次世代型精密医療の実現 | 斎藤 能彦 | 循環器内科学 | 2,600,000 | 補委 | 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 |
| CKD疫学調査分科会担当、KDBデータベース構築 | 鶴屋 和彦 | 腎臓内科学 | 195,000 | 補委 | 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 |
| 免疫再構築症候群 (IRIS) の臨床的・基礎的検討 | 古西 満 | 健康管理センター | 1,800,000 | 補委 | 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 |
| 拡張相肥大型心筋症を対象とした多施設登録研究 | 斎藤 能彦 | 循環器内科学 | 260,000 | 補委 | 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 |
| 慢性心不全患者に対する多職種介入を伴う外来・在宅心臓リハビリテーションの臨床的効果と医療経済的効果を調べる研究 | 岡山 悟志 | 循環器内科学 | 312,000 | 補委 | 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 |
| 多面的アプローチによる子宮内膜症、子宮腺筋症の病態解明、および予防・治療法の開発 | 小林 浩 | 産婦人科学 | 2,200,000 | 補委 | 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 |
| 高ずり応力を伴う循環器難病に随伴する出血性合併症予知法の開発 | 松本 雅則 | 輸血部 | 2,600,000 | 補委 | 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 |

| | | | | | |
|---|--------|-------------|------------|----|---------------------|
| HPV関連中咽頭癌の治療最適化に関する研究 | 太田 一郎 | 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 | 400,000 | 補委 | 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 |
| 慢性めまいの診断法確立とめまい指導の有用性に関する研究 | 北原 紘 | 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 | 510,900 | 補委 | 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 |
| Brilliant Blue G250による水晶体前囊可視化検討 第3相多施設共同医師主導治験 | 緒方 奈保子 | 眼科学 | 1,125,168 | 補委 | 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 |
| 新規分子標的薬による皮膚障害の調査および重症化予防の研究 | 浅田 秀夫 | 皮膚科学 | 845,000 | 補委 | 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 |
| 病理診断支援のための人工知能(病理診断支援AI)開発と統合的「AI医療画像知」の創出 | 大林 千穂 | 病理診断学 | 3,250,000 | 補委 | 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 |
| FGM/CGMの血糖管理における精度・有用性の検証及び健康寿命促進のための血糖変動指標の探索 | 笠原 正登 | 臨床研究センター | 551,200 | 補委 | 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 |
| 伊賀・奥宇陀地域脳神経疾患医療体制整備に関する調査事業(三重県名張市) | 中瀬 裕之 | 脳神経外科学 | 4,000,000 | 補委 | 三重県名張市 |
| 研究成果展開事業 世界に誇る地域発研究開発・実証拠点(リサーチンプレックス)推進プログラム(科学技術振興機構) | 山内 基雄 | 呼吸器内科学 | 1,300,000 | 補委 | 国立研究開発法人 科学技術振興機構 |
| 研究成果展開事業 世界に誇る地域発研究開発・実証拠点(リサーチンプレックス)推進プログラム | 川口 昌彦 | 麻酔科学 | 1,950,000 | 補委 | 国立研究開発法人 科学技術振興機構 |
| 中小企業経営支援等対策費補助金(戦略的基盤技術高度化支援事業) | 西尾福 英之 | 放射線医学 | 912,280 | 補委 | 経済産業省 |
| 戦略的創造研究推進事業「脳表現空間インタラクティブ技術の創出」(JST CREST) | 田村 健太郎 | 脳神経外科学 | 18,200,000 | 補委 | 国立研究開発法人 科学技術振興機構 |
| 摂食障害モデルマウスにおける能腸相関解析:α7ニコチン性アセチルコリン受容体の役割 | 紀本 創兵 | 精神医学 | 500,000 | 補委 | (公財)喫煙科学研究財団 |
| 環器疾患における喫煙習慣と炎症の病態解明:臨床および疫学による多面的研究 | 斎藤 能彦 | 循環器内科 | 500,000 | 補委 | (公財)喫煙科学研究財団 |
| 耳鳴発生における内耳細胞内分子動態の解析 | 北野 公一 | 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 | 1,000,000 | 補委 | 公益財団法人 大阪難病研究財団 |
| 慢性腎臓病における可溶性Flt-1による動脈硬化症抑制機序に関する検討 | 松井 勝 | 腎臓内科学 | 700,000 | 補委 | 公益財団法人 日本応用酵素協会 |
| 心腎連関に関わるPlGFとsFlt-1の臨床的意義およびその機序の解明 | 中田 康紀 | 循環器内科学 | 200,000 | 補委 | 公益財団法人 日本応用酵素協会 |
| ANP系のミネラルコルチコイド受容体抑制機序の解明 | 仲川 仁 | 循環器内科学 | 550,000 | 補委 | 公益財団法人 日本応用酵素協会 |
| ヒト脳オルガノイドを用いたMowat-Wilson症候群の病態解明 | 松井 健 | 脳神経内科学 | 200,000 | 補委 | 武田科学振興財団 |
| 脳波周波数スペクトル解析と心拍変動による自律神経解析の検査統合法に開発とその臨床応用 | 高谷 恒範 | 中央臨床検査部 | 1,000,000 | 補委 | 公益財団法人 黒住医学研究振興財団 |
| 羊水塞栓症補助診断マーカーとしての血清SCCAの有用性の解明 | 赤坂 珠理晃 | 産婦人科学 | 1,500,000 | 補委 | 公益財団法人 神澤医学研究振興財団 |
| 造影頸動脈超音波診断を用いた不安定プラークスコアの確立 | 斎藤 こずえ | 脳神経内科学 | 1,000,000 | 補委 | 一般財団法人 近藤記念医学財団 |
| 心不全発症に関わるオートファジー活性調節メカニズムの解明 | 中田 康紀 | 循環器内科学 | 4,000,000 | 補委 | 公益財団法人 MSD生命科学財団 |
| 平成30年度 高齢者の福祉および健康づくりに関する調査・研究助成(B.健康の維持・増進) | 重松 英樹 | 整形外科 | 390,000 | 補委 | 公益財団法人 大阪ガスグループ福祉財団 |

小計 2:

計 19

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の特定機能病院における所属 | 題名 | 雑誌名・出版年月等 | 論文種別 |
|----|--|-------------------|---|---|------------------|
| 1 | Masuda K, Shigematsu H, Tanaka M, et al. | 整形外科 | Monophasic transcranial constant-current versus constant-voltage stimulation of motor-evoked potentials during spinal surgery. | Sci Rep. 2019 Mar; 9(1): 3773 (オンライン) | Original Article |
| 2 | Yasukawa M, Ohbayashi C, Kawaguchi T, et al. | 呼吸器外科 | Analysis of Histological Grade in Resected Lung-invasive Adenocarcinoma. | Anticancer Res. 2019 Mar; 39(3): 1491-1500 | Original Article |
| 3 | Miyake M, Ohnishi K, Hori S, et al. | 泌尿器科 | Mycoplasma genitalium Infection and Chronic Inflammation in Human Prostate Cancer: Detection Using Prostatectomy and Needle Biopsy Specimens. | Cells. 2019 Mar; 8(3): 212 (オンライン) | Original Article |
| 4 | Iwata E, Scarborough M, Bowden G, et al. | 整形外科 | The role of histology in the diagnosis of spondylodiscitis: correlation with clinical and microbiological findings. | Bone Joint J. 2019 Mar; 101-B(3): 246-252 | Original Article |
| 5 | Kurihara-Shimomura M, Sasahira T, | 歯科口腔外科 | The Oncogenic Activity of miR-29b-1-5p Induces the Epithelial-Mesenchymal Transition in Oral Squamous Cell Carcinoma. | J Clin Med. 2019 Feb; 8(2): 273 (オンライン) | Original Article |
| 6 | Morioka S, Kawaguchi R, Yamada Y, et al. | 産婦人科 | Magnetic resonance imaging findings for discriminating clear cell carcinoma and endometrioid carcinoma of the ovary. | J Ovarian Res. 2019 Feb; 12(1): 20 (オンライン) | Original Article |
| 7 | Sato S, Moriya K, Furukawa M, et al. | 消化器・内分泌代謝内科 | Efficacy of L-carnitine on ribavirin-induced hemolytic anemia in patients with hepatitis C virus infection. | Clin Mol Hepatol. 2019 Mar; 25(1): 65-73 | Original Article |
| 8 | Ito T, Inui H, Miyasaka T, et al. | 耳鼻咽喉・頭頸部外科 | Three-Dimensional Magnetic Resonance Imaging Reveals the Relationship Between the Control of Vertigo and Decreases in Endolymphatic Hydrops After Endolymphatic Sac Drainage With Steroids for Meniere's Disease. | Front Neurol. 2019 Feb; 10: 46 (オンライン) | Original Article |
| 9 | Miyake M, Fukui S, Gotoh D, et al. | 泌尿器科 | The diagnostic utility of retroperitoneoscopic tissue biopsy for unresectable retroperitoneal lesions excluding urogenital cancers. | World J Surg Oncol. 2019 Feb; 17(1): 35 (オンライン) | Original Article |
| 10 | Okuda A, Maegawa N, Matsumori H, et al. | 救急科 | Minimally invasive spinopelvic "crab-shaped fixation" for unstable pelvic ring fractures: technical note and 16 case series. | J Orthop Surg Res. 2019 Feb; 14(1): 51 (オンライン) | Original Article |
| 11 | Fujita Y, Yamauchi M, Uyama H, et al. | 呼吸器内科 | The effects of heated humidification to nasopharynx on nasal resistance and breathing pattern. | PLoS One. 2019 Feb; 14(2): e0210957 (オンライン) | Original Article |
| 12 | Fujii H, Honoki K, Ishihara T, et al. | 整形外科 | Miscorrelation of Functional Outcome and Sociooccupational Status of Childhood, Adolescent, and Young Adult Generation With Bone and Soft Tissue Sarcoma Patients. | J Pediatr Hematol Oncol. 2019 Mar; 41(2): 112-117 | Original Article |

小計12件

| | | | | | |
|----|---|-------------|---|---|------------------|
| 13 | Nakai T, Sakurada A, Endo T, et al. | 放射線治療科 | Caution for simple sequence repeat number variation in the mitochondrial DNA D-loop to determine cancer-specific variants. | Oncol Lett. 2019 Feb; 17(2): 1883-1888 | Original Article |
| 14 | Kobayashi H, Yamada Y, Kawahara N, et al. | 産婦人科 | Modern approaches to noninvasive diagnosis of malignant transformation of endometriosis. | Oncol Lett. 2019 Jan; 17(1): 1196-1202 | Original Article |
| 15 | Omoto K, Matsuda R, Nakai Y, et al. | 脳神経外科 | Expression of peptide transporter 1 has a positive correlation in protoporphyrin IX accumulation induced by 5-aminolevulinic acid with photodynamic detection of non-small cell lung cancer and metastatic brain tumor specimens originating from non-small cell lung cancer. | Photodiagnosis Photodyn Ther. 2019 Mar; 25: 309-316 | Original Article |
| 16 | Nakada Y, Kawakami R, Matsui M, et al. | 循環器内科 | Value of Placental Growth Factor as a Predictor of Adverse Events During the Acute Phase of Acute Decompensated Heart Failure. | Circ J. 2019 Jan; 83(2): 395-400 | Original Article |
| 17 | Yoshizawa H, Nogami K, Matsumoto T, et al. | 小児科 | Dynamic evaluation of hemostasis in the acute phase of Kawasaki disease using comprehensive coagulation functional assays. | Thromb Res. 2019 Feb; 174: 76-83 | Original Article |
| 18 | Nakai Y, Tanaka N, Asakawa I, et al. | 泌尿器科 | Quality of life in patients who underwent 125I brachytherapy, 125I brachytherapy combined with three-dimensional conformal radiation therapy, or intensity-modulated radiation therapy, for prostate cancer. | J Radiat Res. 2019 Mar; 60(2): 270-280 | Original Article |
| 19 | Otani T, Hatakeyama K, Ohtani E, et al. | 病理診断科 | A Colonic Perineurioma. | Clin Med Insights Pathol. 2018 Dec ; 11: | Original Article |
| 20 | Yamakawa N, Kirita T, Umeda M, et al. | 歯科口腔外科 | Tumor budding and adjacent tissue at the invasive front correlate with delayed neck metastasis in clinical early-stage tongue squamous cell carcinoma. | J Surg Oncol. 2019 Mar; 119(3): 370-378 | Original Article |
| 21 | Onishi K, Tanaka N, Miyake M, et al. | 泌尿器科 | Changes in lower urinary tract symptoms after iodine-125 brachytherapy for prostate cancer. | Clin Transl Radiat Oncol. 2019 Jan; 14: 51-58 | Original Article |
| 22 | Okayasu T, Nishimura T, Uratani Y, et al. | 耳鼻咽喉・頭頸部外科 | Temporal window of integration estimated by omission in bone-conducted ultrasound. | Neurosci Lett. 2019 Mar; 696: 1-6 | Original Article |
| 23 | Kasama S, Toyama T, Suzuki S, et al. | 臨床研究センター | Assessment of therapeutic effects of statin on cardiac sympathetic nerve activity and cardiac events in patients with ischemic cardiomyopathy and mild to moderate heart failure. | Nucl Med Commun. 2019 Feb; 40(2): 159-168 | Original Article |
| 24 | Yoshikawa T, Obayashi K, Miyata K, et al. | 眼科 | Diminished circadian blood pressure variability in elderly individuals with nuclear cataracts: cross-sectional analysis in the HEIJO-KYO cohort. | Hypertens Res. 2019 Feb; 42(2): 204-210 | Original Article |
| 25 | Nakanishi A, Kawamura K, Omokawa S, et al. | 整形外科 | Quality of life in patients with toe-to-hand transplantation. | J Plast Surg Hand Surg. 2018 Dec; 52(6): 359-362 | Original Article |
| 26 | Nakai Y, Tanaka N, Anai S, et al. | 泌尿器科 | Quality of life worsened the most severely in patients immediately after intensity-modulated radiotherapy for prostate cancer. | Res Rep Urol. 2018 Oct; 10: 169-180 | Original Article |
| 27 | Sugie K, Komaki H, Eura N, et al. | 脳神経内科 | A Nationwide Survey on Danon Disease in Japan. | Int J Mol Sci. 2018 Nov; 19(11): 3507 (オンライン) | Original Article |
| 28 | Kichikawa K, Ichihashi S, Yokoi H, et al. | 放射線科 | Zilver PTX Post-market Surveillance Study of Paclitaxel-Eluting Stents for Treating Femoropopliteal Artery Disease in Japan: 2-Year Results. | Cardiovasc Intervent Radiol. 2019 Mar; 42(3): 358-364 | Review |
| 29 | Takaya H, Kawaratani H, Tsuji Y, et al. Mitoro A, | 消化器・内分泌代謝内科 | von Willebrand factor is a useful biomarker for liver fibrosis and prediction of hepatocellular carcinoma development in patients with hepatitis B and C. | United European Gastroenterol J. 2018 Nov; 6(9): | Original Article |

小計17件

| | | | | | |
|----|---|-----------------|--|--|------------------|
| 30 | Kawaguchi T, Sawabata N, Nakai T, et al. | 呼吸器外科 | Clinical and pathological characteristics of surgically resected intrapulmonary lymph nodes: Can they be differentiated from other malignant nodules? | Respir Investig. 2018 Nov; 56(6): 473-479 | Original Article |
| 31 | Yasukawa M, Sawabata N, Kawaguchi T, et al. | 呼吸器外科 | Histological Grade: Analysis of Prognosis of Non-small Cell Lung Cancer After Complete Resection. | In Vivo. 2018 Nov; 32(6): 1505-1512 | Original Article |
| 32 | Nakamura K, Sho M, Akahori T, et al. | 消化器外科・小児外科・乳腺外科 | A Comparison Between Plastic and Metallic Biliary Stent Placement in Patients Receiving Preoperative Neoadjuvant Chemoradiotherapy for Resectable Pancreatic Cancer. | World J Surg. 2019 Feb; 43(2): 642-648 | Original Article |
| 33 | Yata S, Ida M, Shimotsuji H, et al. | 歯科口腔外科 | Bite injuries caused by transcranial electrical stimulation motor-evoked potentials' monitoring: incidence, associated factors, and clinical course | J Anesth. 2018 Dec; 32(6): 844-849 | Original Article |
| 34 | Morizawa Y, Miyake M, Shimada K, et al. | 泌尿器科 | Colony-stimulating factors detected in tumor cells and voided urine are potential prognostic markers for patients with muscle-invasive bladder cancer undergoing radical cystectomy. | Res Rep Urol. 2018 Sep; 10: 103-111 | Original Article |
| 35 | Ohara K, Tanaka Y, Taniguchi A, et al. | 整形外科 | Is metatarsus primus elevatus truly observed in hallux rigidus? Radiographic study using mapping methods. | J Orthop Sci. 2019 Mar; 24(2): 312-319 | Original Article |
| 36 | Yasuno F, Matsuoka K, Miyasaka T, et al. | 精神科 | Decreased perfusion of the posterior cingulate gyri shown by a cingulate island score is a possible marker of vulnerability to behavioural and psychological symptoms of Alzheimer's disease: a pilot study. | Psychogeriatrics. 2019 Mar; 19(2): 165-170 | Original Article |
| 37 | Morita K, Fujii T, Itami H, et al. | 病理診断科 | NACC1, as a Target of MicroRNA-331-3p, Regulates Cell Proliferation in Urothelial Carcinoma Cells. | Cancers (Basel). 2018 Sep; 10(10): 347(オンライン) | Original Article |
| 38 | Migita K, Matsumoto S, Wakatsuki K, et al. | 消化器外科・小児外科・乳腺外科 | The Prognostic Significance of the Geriatric Nutritional Risk Index in Patients with Esophageal Squamous Cell Carcinoma. | Nutr Cancer. 2018 Nov; 70(8): 1237-1245 | Original Article |
| 39 | Nagai M, Sho M, Akahori T, et al. | 消化器外科・小児外科・乳腺外科 | Risk Factors for Late-Onset Gastrointestinal Hemorrhage After Pancreatoduodenectomy for Pancreatic Cancer. | World J Surg. 2019 Feb; 43(2): 626-633 | Original Article |
| 40 | Nomi T, Hokuto D, Yoshikawa T, et al. | 消化器外科・小児外科・乳腺外科 | A Novel Navigation for Laparoscopic Anatomic Liver Resection Using Indocyanine Green Fluorescence. | Ann Surg Oncol. 2018 Dec; 25(13): 3982 | Original Article |
| 41 | Nakagawa K, Akahori T, Nishiwada S, et al. | 消化器外科・小児外科・乳腺外科 | Prognostic factors for actual long-term survival in the era of multidisciplinary treatment for pancreatic ductal adenocarcinoma. | Langenbecks Arch Surg. 2018 Sep; 403(6): 693-700 | Original Article |
| 42 | Fujimoto Y, Imanaka S, Yamada Y, et al. | 産婦人科 | Comparison of redox parameters in ovarian endometrioma and its malignant transformation. | Oncol Lett. 2018 Oct; 16(4): 5257-5264 | Case report |
| 43 | Takeda K, Noguchi R, Namisaki T, et al. | 消化器・内分泌代謝内科 | Efficacy and tolerability of interferon-free regimen for patients with genotype-1 HCV infection. | Exp Ther Med. 2018 Sep; 16(3): 2743-2750 | Original Article |
| 44 | Kanaoka K, Okayama S, Yoneyama K, et al. | 心臓血管外科 | Number of Board-Certified Cardiologists and Acute Myocardial Infarction-Related Mortality in Japan- JROAD and JROAD-DPC Registry Analysis. | Circ J. 2018 Oct; 82(11): 2845-2851 | Original Article |

小計15件

| | | | | | |
|----|---|------------------------|---|---|------------------|
| 45 | Morizawa Y, Miyake M, Shimada K, et al. | 泌尿器科 | Correlation of Immune Cells and Cytokines in the Tumor Microenvironment with Elevated Neutrophil-To-Lymphocyte Ratio in Blood: An Analysis of Muscle-Invasive Bladder Cancer. | Cancer Invest. 2018 Sep; 36(7): 395-405 | Original Article |
| 46 | Okura Y, Namisaki T, Sato S, et al. Furukawa M, | 消化器・内分泌代謝内科 | Proton pump inhibitor therapy does not increase serum endotoxin activity in patients with cirrhosis. | Hepatol Res. 2019 Feb; 49(2): 232-238 | Original Article |
| 47 | Itami H, Hara S, Matsumoto M, et al. | 病理診断科 | Complement activation associated with ADAMTS13 deficiency may contribute to the characteristic glomerular manifestations in Upshaw-Schulman syndrome. | Thromb Res. 2018 Oct; 170: 148-155 | Original Article |
| 48 | Uchihara Y, Iwata E, Papadimitriou-Olivgeri I, et al. | 整形外科 | Localised foot and ankle amyloid deposition. | Pathol Res Pract. 2018 Oct; 214(10): 1661-1666 | Original Article |
| 49 | Komatsu Y, Kasahara K, Inoue T, et al. | 感染症センター | Molecular epidemiology and clinical features of extended-spectrum beta-lactamase- or carbapenemase-producing Escherichia coli bacteremia in Japan. | PLoS One. 2018 Aug; 13(8): e0202276 (オンライン) | Original Article |
| 50 | Nakanishi A, Kawamura K, Omokawa S, et al. | 整形外科 | Predictors of Hand Dexterity after Single-Digit Replantation. | J Reconstr Microsurg. 2019 Mar; 35(3): 194-197 | Original Article |
| 51 | Moriya K, Namisaki T, Sato S, et al. | 消化器・内分泌代謝内科 内分泌代謝内科 | Efficacy of bi-monthly hepatic arterial infusion chemotherapy for advanced hepatocellular carcinoma. | J Gastrointest Oncol. 2018 Aug; 9(4): 741-749 | Original Article |
| 52 | Shimomura H, Sasahira T, Nakashima C, et al. | 歯科口腔外科 | Downregulation of DHRS9 is associated with poor prognosis in oral squamous cell carcinoma. | Pathology. 2018 Oct; 50(6): 642-647 | Original Article |
| 53 | Yamaguchi Y, Kimoto S, Nagahama T, et al. | 精神科 | Dosage-related nature of escitalopram treatment-emergent mania/hypomania: a case series. | Neuropsychiatr Dis Treat. 2018 Aug; 14: 2099-2104 | Original Article |
| 54 | Nakano T, Onoue K, Nakada Y, et al. | 循環器内科 | Alteration of beta-Adrenoceptor Signaling in Left Ventricle of Acute Phase Takotsubo Syndrome: a Human Study. | Sci Rep. 2018 Aug; 8(1): 12731 (オンライン) | Original Article |
| 55 | Nakaue J, Koizumi M, Nakajima H, et al. | 糖尿病学 | Development of a self-efficacy questionnaire, 'Insulin Therapy Self-efficacy Scale (ITSS)', for insulin users in Japanese: The Self-Efficacy-Q study. | J Diabetes Investig. 2019 Mar; 10(2): 358-366 | Original Article |
| 56 | Yada K, Nogami K, Shinozawa K, Kitazawa T, et al. | 小児科 | Emicizumab-mediated haemostatic function in patients with haemophilia A is down-regulated by activated protein C through inactivation of activated factor V. | Br J Haematol. 2018 Oct; 183(2): 257-266 | Original Article |
| 57 | Tohma Y, Takeuchi R, Tanaka Y | 整形外科 | Advantages of creation of holes and removal of air in artificial bone for early bone formation when used artificial bone as a gap filler in open wedge high tibial osteotomy. | Eur J Orthop Surg Traumatol. 2019 Jan; 29(1): 131-137 | Original Article |
| 58 | Watanabe T, Kawai Y, Iwamura A, et al. | 救急科 | Outcomes after Traumatic Brain Injury with Concomitant Severe Extracranial Injuries. | Neurol Med Chir (Tokyo). 2018 Sep; 58(9): 393-399 | Original Article |
| 59 | Tsukamoto S, Mavrogenis AF, Leone G, et al. | 整形外科 | Denosumab does not decrease the risk of lung metastases from bone giant cell tumour. | Int Orthop. 2019 Feb; 43(2): 483-489 | Original Article |
| 60 | Fujiwara A, Watanabe K, Hashizume K, et al. | 麻酔科 | Transforaminal vs Interlaminar Epidural Steroid Injection for Acute-Phase Shingles: A Randomized, Prospective Trial. | Pain Physician. 2018 Jul; 21(4): 373-382 | Original Article |

| | | | | | |
|----|---|-------------|---|--|------------------|
| 61 | Kitahara T, Ota I, Horinaka A, et al. | 耳鼻咽喉・頭頸部外科 | Idiopathic benign paroxysmal positional vertigo with persistent vertigo/dizziness sensation is associated with latent canal paresis, endolymphatic hydrops, and osteoporosis. | Auris Nasus Larynx. 2019 Feb; 46(1): 27–33 | Original Article |
| 62 | Nishimura F, Wajima D, Park YS, et al. | 脳神経外科 | Efficacy of the visual evoked potential monitoring in endoscopic transnasal transphenoidal surgery as a real-time visual function. | Neurol India. 2018 Jul; 66(4): 1075–1080 | Original Article |
| 63 | Yoshiji H, Karino Y, Suzuki Y, et al. | 消化器・内分泌代謝内科 | Cross-over study in hyperammonemia patients for efficacy, safety, and acceptability of a new lactulose preparation (SK-1202) compared to approved drug. | Hepatol Res. 2018 Dec; 48(13): 1178–1183 | Original Article |
| 64 | Nakai Y, Inoue K, Tsuzuki T, et al. | 泌尿器科 | Oral 5-aminolevulinic acid-mediated photodynamic diagnosis using fluorescence cystoscopy for non-muscle-invasive bladder cancer: A multicenter phase III study | Int J Urol. 2018 Aug; 25(8): 723–729 | Original Article |
| 65 | Tanase Y, Takahama J, Kawaguchi R, et al. | 産婦人科 | Analysis of Risk Factors for Lymphatic Metastasis in Endometrial Carcinoma and Utility of Three-Dimensional Magnetic Resonance Imaging in Gynecology | World J Oncol. 2018 Jun; 9(3): 74–79 | Original Article |
| 66 | Itami H, Nakamine H, Takeda M, et al. | 病理診断科 | Immunohistochemical Reappraisal Regarding the Frequency of Primary Salivary Gland Follicular Lymphoma. | Int J Surg Pathol. 2019 Feb; 27(1): 48–54 | Original Article |
| 67 | Tagawa M, Hamano T, Sueta S, et al. | 腎臓内科 | Higher dialysate calcium concentration is associated with incident myocardial infarction among diabetic patients with low bone turnover: a longitudinal study. | Sci Rep. 2018 Jul; 8(1): 10060(オンライン) | Original Article |
| 68 | Sawabata N, Kawase A, Takahashi N, et al. | 呼吸器外科 | Validating margin status in lung wedge resection for clinical stage I non-small cell lung cancer. | Surg Today. 2018 Oct; 48(10): 963–967 | Original Article |
| 69 | Nogami K, Taki M, Matsushita T, et al. | 小児科 | The Japanese Immune Tolerance Induction (J-ITI) study in haemophilia patients with inhibitor: Outcomes and successful predictors of ITI treatment. | Haemophilia. 2018 Sep; 24(5): e328–e337 | Original Article |
| 70 | Kitamura S, Shimada H, Niwa F, et al. | 精神科 | Tau-induced focal neurotoxicity and network disruption related to apathy in Alzheimer's disease. | J Neurol Neurosurg Psychiatry. 2018 Nov; 89(11): 1208–1214 | Original Article |
| 71 | Nakai Y, Tanaka N, Miyake M, et al. | 泌尿器科 | Response to flutamide, as second-line therapy after bicalutamide, predicts efficacy of abiraterone, not that of enzalutamide. | BMC Res Notes. 2018 May; 11(1): 342(オンライン) | Original Article |
| 72 | Hori S, Miyake M, Morizawa Y, et al. | 泌尿器科 | Impact of Preoperative Abdominal Visceral Adipose Tissue Area and Nutritional Status on Renal Function After Donor Nephrectomy in Japanese Living Donors for Renal Transplantation. | Ann Transplant. 2018 May; 23: 364–376 | Original Article |
| 73 | Park YS, Kogeichi Y, Shida Y, et al. | 脳神経外科 | Efficacy of the All-in-One Therapeutic Strategy for Severe Traumatic Brain Injury: Preliminary Outcome and Limitation. | Korean J Neurotrauma. 2018 Apr; 14(1): 6–13 | Review |
| 74 | Nogami K, Soeda T, Matsumoto T, et al. | 小児科 | Routine measurements of factor VIII activity and inhibitor titer in the presence of emicizumab utilizing anti-idiotypic monoclonal antibodies. | J Thromb Haemost. 2018 Jul; 16(7): 1383–1390 | Original Article |
| 75 | Minamiguchi K, Takahama J, Uchiyama T, et al. | 放射線科 | Uterine endometrial carcinoma with DNA mismatch repair deficiency: magnetic resonance imaging findings and clinical features. | Jpn J Radiol. 2018 Jul; 36(7): 429–436 | Original Article |

小計15件

| | | | | | |
|----|--|-----------------|--|---|------------------|
| 76 | Nakai Y, Miyake M, Anai S, et al. | 泌尿器科 | Spectrophotometric photodynamic diagnosis of prostate cancer cells excreted in voided urine using 5-aminolevulinic acid. | Lasers Med Sci. 2018 Sep; 33(7): 1557-1563 | Original Article |
| 77 | Owari T, Miyake M, Nakai Y, et al. | 泌尿器科 | A Genitourinary Cancer-specific Scoring System for the Prediction of Survival in Patients with Bone Metastasis: A Retrospective Analysis of Prostate Cancer, Renal Cell Carcinoma, and Urothelial Carcinoma. | Anticancer Res. 2018 May; 38(5): 3097-3103 | Original Article |
| 78 | Okazaki K, Yamamuro K, Iida J, et al. | 精神科 | Intra-individual variability across cognitive task in drug-naive pediatric patients with obsessive compulsive disorder. | Psychiatry Res. 2018 Jun; 264: 421-426 | Original Article |
| 79 | Yasukawa M, Sawabata N, Kawaguchi T, et al. | 呼吸器外科 | Clinical Implications of Transbronchial Biopsy for Surgically-resected Non-small Cell Lung Cancer. | In Vivo. 2018 May; 32(3): 691-698 | Original Article |
| 80 | Kishimoto M, Yamana H, Inoue S, et al. | 麻酔科 | Suspected periprosthetic joint infection after total knee arthroplasty under propofol versus sevoflurane anesthesia: a retrospective cohort study. | Can J Anaesth. 2018 Aug; 65(8): 893-900 | Original Article |
| 81 | Asai H, Fukushima H, Bolstad F, et al. | 救急科 | Quality of dispatch-assisted cardiopulmonary resuscitation by lay rescuers following a standard protocol in Japan: an observational simulation study. | Acute Med Surg. 2018 Apr; 5(2): 133-139 | Original Article |
| 82 | Nogami K, Matsumoto T, Tabuchi Y, et al. | 小児科 | Modified clot waveform analysis to measure plasma coagulation potential in the presence of the anti-factor IXa/factor X bispecific antibody emicizumab. | J Thromb Haemost. 2018 Jun; 16(6): 1078-1088 | Original Article |
| 83 | Nogami K, Matsumoto T, Yada K, et al. | 小児科 | Factor (F)VIII/VIIIa enhances global haemostatic function in the co-presence of bypassing agents and FVIII among patients with haemophilia A with inhibitor. | Br J Haematol. 2018 May; 181(4): 528-536 | Original Article |
| 84 | Ishii H, Shin H, Tosaki T, et al. | 糖尿病学 | Reproducibility and Validity of a Questionnaire Measuring Treatment Burden on Patients with Type 2 Diabetes: Diabetic Treatment Burden Questionnaire (DTBQ) | Diabetes Ther. 2018 Jun; 9: 1001-1019 | Original Article |
| 85 | Nogami K, Takedani H, Shima M, et al. | 小児科 | Perioperative safety and hemostatic efficacy of Advate((R)) in patients with hemophilia A in a postmarketing surveillance in Japan. | Int J Hematol. 2018 Jul; 108 :22-29 | Original Article |
| 86 | Ida M, Naito Y, Matsunari Y, et al. | 麻酔科 | Prevalence and associated factors of preoperative functional disability in elective surgical patients over 55 years old: a prospective cohort study. | J Anesth. 2018 Jun; 32: 381-386 | Original Article |
| 87 | Takeshima Y, Nishimura F, Nakagawa I, et al. | 脳神経外科 | Favorable Long-Term Outcomes for Positional Vertebral Artery Occlusion with Treatment Strategy Prioritizing Spinal Fusion Surgery. | World Neurosurg. 2018 Jun; 114: e792-e799 | Original Article |
| 88 | Nakatani M, Migita K, Matsumoto S, et al. | 消化器外科・小児外科・乳腺外科 | Prognostic Significance of the Prognostic Nutritional Index in Patients with Recurrent Esophageal Squamous Cell Carcinoma. | Nutr Cancer. 2018 Apr; 70: 467-473 | Original Article |
| 89 | Yamamuro K, Kimoto S, Iida J, et al. | 精神科 | Distinct patterns of blood oxygenation in the prefrontal cortex in clinical phenotypes of schizophrenia and bipolar disorder. | J Affect Disord. 2018 Jul; 234: 45-53 | Original Article |
| 90 | Shinjo T, Hayashi H, Takatani T, et al. | 麻酔科 | Intraoperative feasibility of bulbocavernosus reflex monitoring during untethering surgery in infants and children. | J Clin Monit Comput. 2019 Feb; 33(1): 155-163 | Original Article |
| 91 | Hirata K, Ogawa T, Fujikura H, et al. | 感染症センター | Characteristics of health problems in returned overseas travelers at a tertiary teaching hospital in a suburban area in Japan. | J Infect Chemother. 2018 Aug; 24: 682-685 | Original Article |

小計16件

| | | | | | |
|-----|--|-----------------|--|--|------------------|
| 92 | Okamoto M, Yamashita M, Ogata N | 眼科 | Effects of intravitreal injection of ranibizumab on choroidal structure and blood flow in eyes with diabetic macular edema. | Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2018 May; 256: 885-892 | Original Article |
| 93 | Iwata E, Shigematsu H, Yamamoto Y, et al. | 整形外科 | Lymphocyte Count at 4 Days Postoperatively: A Reliable Screening Marker for Surgical Site Infection After Posterior Lumbar Decompression Surgery. | Spine (Phila Pa 1976). 2018 Sep; 43(18): E1096-E1101 | Original Article |
| 94 | Kataoka H, Tanaka N, Kiriya T, et al. | 脳神経内科 | Step Numbers and Hoehn-Yahr Stage after Six Years. | Eur Neurol. 2018 May; 79: 118-124 | Original Article |
| 95 | Ueda S, Ota T, Iida J, et al. | 精神科 | Reduced prefrontal hemodynamic response in adult attention-deficit hyperactivity disorder as measured by near-infrared spectroscopy. | Psychiatry Clin Neurosci. 2018 Jun; 72: 380-390 | Original Article |
| 96 | Tanaka N, Torimoto K, Asakawa I, et al. | 泌尿器科 | Comparison of chronological changes in urinary function in patients who underwent low-dose-rate brachytherapy for prostate cancer-A randomized controlled trial of alpha-1 adrenoceptor antagonist alone versus combination with cyclooxygenase-2 inhibitor. | Brachytherapy. 2018 May-Jun; 17: 537-543 | Original Article |
| 97 | Hayashi H, Okamoto M, Kawanishi H, et al. | 麻酔科 | Association Between Optic Nerve Head Blood Flow Measured Using Laser Speckle Flowgraphy and Radial Arterial Pressure During Aortic Arch Surgery. | J Cardiothorac Vasc Anesth. 2018 Apr; 32: 702-708 | Original Article |
| 98 | Ishioka K, Hokuto D, Nomi T, et al. | 消化器外科・小児外科・乳腺外科 | Significance of bacterial culturing of prophylactic drainage fluid in the early postoperative period after liver resection for predicting the development of surgical site infections. | Surg Today. 2018 Jun; 48: 625-631 | Original Article |
| 99 | Maenohara Y, Taniguchi A, Tomiwa K, et al. | 整形外科 | Outcomes of Bilateral vs Unilateral Ankle Arthrodesis. | Foot Ankle Int. 2018 May; 39: 530-534 | Original Article |
| 100 | Miyake M, Tatsumi Y, Matsumoto H, et al. | 泌尿器科 | Outcomes of subsequent non-muscle-invasive bladder cancer treated with intravesical Bacillus Calmette-Guerin after radical nephroureterectomy for upper urinary tract urothelial carcinoma. | BJU Int. 2018 May; 121: 764-773 | Original Article |
| 101 | Matsuoka K, Yasuno F, Hashimoto A, et al. | 精神科 | Left dorsolateral prefrontal cortex atrophy is associated with frontal lobe function in Alzheimer's disease and contributes to caregiver burden. | Int J Geriatr Psychiatry. 2018 May; 33: 703-709 | Original Article |
| 102 | Terada Y, Inoue S, Konda M, et al. | 麻酔科 | Effects of deep sedation under mechanical ventilation on cognitive outcome in patients undergoing surgery for oral and maxillofacial cancer and microvascular reconstruction. | Med Intensiva. 2019 Jan; 43(1): 3-9 | Original Article |
| 103 | Tanaka T, Masada T, Nishiofuku H, et al. | 放射線科 | Development of pumping emulsification device with glass membrane to form ideal lipiodol emulsion in transarterial chemoembolization. | Eur Radiol. 2018 May; 28: 2203-2207 | Original Article |
| 104 | Kurihara-Shimomura M, Sasahira T, Nakamura H, et al. | 歯科口腔外科 | Zinc finger AN1-type containing 4 is a novel marker for predicting metastasis and poor prognosis in oral squamous cell carcinoma. | J Clin Pathol. 2018 May; 71: 436-441 | Original Article |
| 105 | Miyake M, Owari T, Iwamoto T, et al. | 泌尿器科 | Clinical utility of bioelectrical impedance analysis in patients with locoregional muscle invasive or metastatic urothelial carcinoma: a subanalysis of changes in body composition during neoadjuvant systemic chemotherapy. | Support Care Cancer. 2018 Apr; 26: 1077-1086 | Original Article |

小計14件

| | | | | | |
|-----|--|------|---|--|------------------|
| 106 | Shigematsu H, Kawaguchi M, Hayashi H, et al. | 整形外科 | Post-tetanic transcranial motor evoked potentials augment the amplitude of compound muscle action potentials recorded from innervated and non-innervated muscles. | Spine J. 2018 May; 18: 740-746 | Original Article |
| 107 | Tanase Y, Kawaguchi R, Takahama J, et al. | 産婦人科 | Factors that Differentiate between Endometriosis-associated Ovarian Cancer and Benign Ovarian Endometriosis with Mural Nodules | Magn Reson Med Sci. 2018 Jul; 17(3): 231-237 | Original Article |

小計2件

合計107件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院 における所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|----|-------|---------------------------|----|---------------|------|
| 1 | | | | | |
| 2 | | | | | |
| 3 | | | | | |
| ~ | | | | | |

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

| | |
|---|--|
| ① 倫理審査委員会の設置状況 | <input checked="" type="checkbox"/> ・無 |
| ② 倫理審査委員会の手順書の整備状況 | <input checked="" type="checkbox"/> ・無 |
| ・ 手順書の主な内容 委員会の構成、責務、審査とその判定、審査書類の準備と手続き、事務局業務について | |
| ③ 倫理審査委員会の開催状況 | 年 8 回 |

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

| | |
|--|--|
| ① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況 | <input checked="" type="checkbox"/> ・無 |
| ② 利益相反の管理に関する規定の整備状況 | <input checked="" type="checkbox"/> ・無 |
| ・ 規定の主な内容 目的、適用範囲、利益相反管理委員会、利益相反に関する相談室、自己申告書の提出、委員会における審査等 | |
| ③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況 | 年 1 3 回 |

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

| | |
|--|---------|
| ① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況 | 年 1 3 回 |
| ・ 研修の主な内容 人を対象とする医学系研究及びヒトゲノム・遺伝子解析研究を実施するために必要な倫理課題について（被験者保護、データの質管理、計画書の遵守等） | |

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

各診療科が総合的な臨床力を重視するとともにさまざまな専門医養成コースを準備しており、複数科連携プログラムも稼働している。このため各人がそれぞれのニーズに合わせてキャリアデザインを組むことが可能となっている。
内科各科の連携は密接で内科合同カンファレンスを定期的で開催するとともに、総合内科専門医養成コースを設けている。
さらに、附属病院として、緩和ケアを含むがん薬物療法および放射線治療に関する知識・技術を修得した総合的ながん専門医を養成するためのプログラムを策定し、「がん薬物療法専門医」養成コースも設けている。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

| | |
|-------------|-----|
| 上記研修を受けた医師数 | 98人 |
|-------------|-----|

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

| 研修統括者氏名 | 診療科 | 役職等 | 臨床経験年数 | 特記事項 |
|---------|--------------------|-----|--------|-----------|
| 斎藤 能彦 | 循環器内科 | 教授 | 38年 | |
| 室 繁郎 | 呼吸器・アレルギー・血液内科 | 教授 | 30年 | |
| 吉治 仁志 | 消化器・内分泌代謝内科 | 教授 | 32年 | |
| 杉江 和馬 | 脳神経内科 | 教授 | 24年 | |
| 庄 雅之 | 消化器外科・小児外科・乳腺外科 | 教授 | 28年 | |
| 中瀬 裕之 | 脳神経外科 | 教授 | 36年 | |
| 谷口 繁樹 | 心臓血管外科 | 教授 | 37年 | |
| 田中 康仁 | 整形外科 | 教授 | 35年 | リウマチ科も兼ねる |
| 小林 浩 | 産婦人科 | 教授 | 39年 | |
| 緒方 奈保子 | 眼科 | 教授 | 36年 | |
| 嶋 緑倫 | 小児科 | 教授 | 40年 | |
| 岸本 年史 | 精神科 | 教授 | 38年 | |
| 浅田 秀夫 | 皮膚科 | 教授 | 35年 | |
| 藤本 清秀 | 泌尿器科 | 教授 | 32年 | |
| 北原 紘 | 耳鼻咽喉・頭頸部外科 | 教授 | 27年 | 内分泌外科も兼ねる |
| 吉川 公彦 | 放射線科 (画像診断・IVR) | 教授 | 39年 | |
| 長谷川 正俊 | 放射線治療・核医学科 | 教授 | 37年 | |
| 川口 昌彦 | 麻酔科 | 教授 | 31年 | |

| 研修統括者氏名 | 診療科 | 役職等 | 臨床経験年数 | 特記事項 |
|---------|------------|------|--------|------|
| 西尾 健治 | 総合診療科 | 教授 | 37年 | |
| 桐田 忠昭 | 歯科口腔外科 | 教授 | 36年 | |
| 福島 英賢 | 救急科 | 教授 | 23年 | |
| 笠原 敬 | 感染制御内科 | 准教授 | 20年 | |
| 桑原 理充 | 形成外科 | 病院教授 | 23年 | |
| 堀川 博誠 | リハビリテーション科 | 病院教授 | 36年 | |
| 大林 千穂 | 病理診断科 | 教授 | 36年 | |
| 澤端 章好 | 呼吸器外科 | 准教授 | 30年 | |
| 鶴屋 和彦 | 腎臓内科 | 教授 | 28年 | |

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

| | |
|---------|---|
| 計画・現状の別 | 1. 計画 (2). 現状 |
| 管理責任者氏名 | 病院長 古家 仁 |
| 管理担当者氏名 | 病院経営部次長（経営企画課長）藤田 和成、医療サービス課長 鶴谷 幸彦、 病院管理課長 畑 浩之 |

| | | 保管場所 | 管理方法 | |
|------------------|--------------------|--|------------------|--|
| 診療に関する諸記録 | 規則第二十二條の三第二項に掲げる事項 | 病院日誌 | 病院管理課 | 個々の患者諸記録は電子カルテで一括管理 診療録の院外への持ち出しについては診療録取扱内規により禁止されている。 |
| | | 各科診療日誌 | 医療情報部 | |
| | | 処方せん | 薬剤部 | |
| | | 手術記録 | 医療情報部 | |
| | | 看護記録 | 医療情報部 | |
| | | 検査所見記録 | 医療情報部 | |
| | | エックス線写真 | 医療情報部 | |
| | | 紹介状 | 医療情報部 | |
| | | 退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書 | 医療情報部 | |
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | 規則第二十二條の三第三項に掲げる事項 | 従業者数を明らかにする帳簿 | 人事課 | 各種データ（又は帳冊） |
| | | 高度の医療の提供の実績 | 各診療科 | |
| | | 高度の医療技術の開発及び評価の実績 | 各診療科 | |
| | | 高度の医療の研修の実績 | 各診療科 | |
| | | 閲覧実績 | 実績なし | |
| | | 紹介患者に対する医療提供の実績 | 医療情報部 地域医療連携室 | |
| | 規則第一條の十一第一項に掲げる事項 | 入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿 | 薬剤部 経営企画課 | 各種データ（又は帳冊） |
| | | 医療に係る安全管理のための指針の整備状況 | 医療安全推進室 | |
| | | 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況 | 医療安全推進室 | |
| | | 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況 | 医療安全推進室 | |
| | | 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況 | 医療安全推進室 | |

| | | | 保管場所 | 管理方法 |
|---|-----------------------------|---|---------------------|-------------|
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | 規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項 | 院内感染対策のための指針の策定状況 | 感染管理室 | 各種データ（又は帳冊） |
| | | 院内感染対策のための委員会の開催状況 | 感染管理室 | |
| | | 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況 | 感染管理室 | |
| | | 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況 | 感染管理室 | |
| | | 医薬品安全管理責任者の配置状況 | 薬剤部 | |
| | | 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況 | 薬剤部 | |
| | | 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況 | 薬剤部 | |
| | | 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | 薬剤部 | |
| | | 医療機器安全管理責任者の配置状況 | 医療技術センター | |
| | | 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況 | 医療安全推進室 医療技術センター | |
| | | 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況 | 医療安全推進室 医療技術センター | |
| 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | 医療安全推進室 医療技術センター | | | |

| | | 保管場所 | 管理方法 |
|--|-------------------------------|---|---------|
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | 規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項 | 医療安全管理責任者の配置状況 | 医療安全推進室 |
| | | 専任の院内感染対策を行う者の配置状況 | 感染管理室 |
| | | 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 | 薬剤部 |
| | | 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況 | 医療安全推進室 |
| | | 診療録等の管理に関する責任者の選任状況 | 医療情報部 |
| | | 医療安全管理部門の設置状況 | 医療安全推進室 |
| | | 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況 | 医療サービス課 |
| | | 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況 | 医療サービス課 |
| | | 監査委員会の設置状況 | 病院管理課 |
| | | 入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況 | 医療安全推進室 |
| | | 他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況 | 医療安全推進室 |
| | | 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況 | 医療相談室 |
| | | 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況 | 医療安全推進室 |
| | | 職員研修の実施状況 | 医療安全推進室 |
| 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況 | 医療安全推進室 | | |

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

| | | |
|---|--|--------|
| 計画・現状の別 | 1. 計画 | (2) 現状 |
| 閲覧責任者氏名 | 病院長 古家 仁 | |
| 閲覧担当者氏名 | 病院経営部次長(経営企画課長) 藤田 和成、医療サービス課長 鶴谷 幸彦、病院管理課長 畑 浩之 | |
| 閲覧の求めに応じる場所 | 各課 執務室 | |
| 閲覧の手続の概要 | | |
| 「公立大学法人奈良県立医科大学個人情報取扱規程」を準用した開示(閲覧)手続による。 | | |
| (診療録等個人情報を含む場合) | | |
| 1. 開示(閲覧)請求 | | |
| ↓ | | |
| 2. 法人内部での決裁 | | |
| ↓ | | |
| 3. 総合窓口(県 総務部総務課)への協議 | | |
| ↓ | | |
| 4. 決定 | | |
| ↓ | | |
| 5. 開示(閲覧) | | |

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

| | | |
|-----------|--------|------|
| 前年度の総閲覧件数 | 延 | 0件 |
| 閲覧者別 | 医師 | 延 0件 |
| | 歯科医師 | 延 0件 |
| | 国 | 延 0件 |
| | 地方公共団体 | 延 0件 |

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

| | |
|---|--------|
| ① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況 | 有・無 |
| <p>・ 指針の主な内容：医療事故の予防・再発防止対策ならびに発生時の適切な対策など、本院における医療安全管理体制を確立し、適切かつ安全で質の高い医療サービスの提供を図ることを目的とした内容になっている。</p> <p>患者に信頼される医療サービスの提供と医療の質的向上を求めていくことを安全管理に関する基本姿勢とし、医療安全管理体制の構築（医療安全管理委員会、医療安全推進室の設置等）、医療安全管理のための院内報告制度等の構築、医療事故発生時の対応方法の確立、職員に対する安全教育・研修の実施等について定めている。</p> | |
| ② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況 | |
| <p>・ 設置の有無（有・無）</p> <p>・ 開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">・ 医療安全管理に関する重要案件の審議に関すること。・ 医療安全管理のための基本方針の策定及び変更に関すること。・ 医療事故等の分析と安全管理に係る改善策に関すること。・ 医療事故調査委員会の審議結果を受けた再発防止に向けての検討に関すること。・ 管理委員会で立案された改善策の実施並びに実施状況の調査及び見直しに関すること。・ 医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者との連携に関すること。 <p>等を行う。</p> | |
| ③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況 | 年 10 回 |
| <p>・ 研修の主な内容：「患者と共に築く医療安全」、「医薬品安全管理研修Ⅰ 医薬品に関する安全な使用と管理」、「RSTセミナー総論「安全な人口呼吸器管理を中心とした呼吸サポートチームの活動について」、医療機器安全管理研修Ⅰ「医療機器に関する安全な使用と管理」、「医療安全の行方」～我々はどう安全にかかわるべきか～」、「ヒューマンエラーと医療安全「人は誰でも間違える」、「医療ガスについて」、「治療方針はだれがどのように決める？－DNARの現状と問題点－」、「医療情報の安全な利用について」、「医療機器安全管理研修Ⅱ」、「医薬品安全管理研修Ⅱ」</p> | |
| ④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況 | |
| <p>・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>①事故報告</p> <ul style="list-style-type: none">○リスクマネージャー会議で事故報告の実施推進を周知し、各部署へ伝達してもらう。また、研修案内一斉メールでお知らせと併せて周知するとともに、研修会開始前にスライドで周知。中途採用者対象には、DVDで周知。○インシデント・アクシデント報告を全例チェックし、疑義のあるものは室ミーティング、医療安全管理委員会で審議・対応している。死亡報告、オカレンス報告も全例チェックし、事故性の有無を確認し、事故が疑われるものはインシデント・アクシデント報告と同様の対応をしている。（死亡報告は、報告漏れの確認を死亡退院患者一覧との引き合わせで行い、報告がない事例については報告を促している）○インシデント報告システムに「オカレンス報告」を作り、インシデント・アクシデントには至らなかつたが、気になったことを報告してもらっている。（H30年度：183件）○分析・対策検討会議でインシデント、アクシデントの原因分析と対策立案を行い、医療安全管理委員会、病院運営協議会で承認を得て実施し、検証を行っている。 <p>②その他</p> <ul style="list-style-type: none">○各部署宛に、事故報告の中で周知が必要と思われる内容を「医療安全ニュース」（医療安全推進室作成）として随時配付するほか、医療安全情報（医療機能評価機構）も随時配付して | |

いる。

- 認定病院患者安全協議会主催の研修会等の案内を対象部署に案内している。
- 院内ラウンドを実施して、実態把握と改善指導を行っている。
- RSTラウンドを実施して、人工呼吸器の安全確保と事故防止及び未然確認を行っている。
- チームSTEPPS研修を開催し、チームトレーニングによるコミュニケーションや、リーダーシップなどのスキルをあげ、患者安全を高め事故防止につなげている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

| | |
|---|------|
| ① 院内感染対策のための指針の策定状況 | 有・無 |
| <p>・ 指針の主な内容：①院内感染対策に関する基本的考え方、②感染対策のための委員会その他の当該病院等の組織に関する基本的事項、③院内感染対策のための従事者に対する研修に関する基本方針、④感染症の発生状況の報告に関する基本方針、⑤院内感染発生時の対応に関する基本方針、⑥患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針、⑦その他の当該病院等における院内感染対策の推進のために必要な基本方針等、その他感染対策を推進するために必要な基本方針を記載している。</p> | |
| ② 院内感染対策のための委員会の開催状況 | 年12回 |
| <p>・ 活動の主な内容：病院長、感染症センター長、感染管理室長、看護部長、薬剤部長、中央臨床検査部長、病院経営部長、ICD、ICNなど職種横断的に構成しており、委員は22名。毎月1回開催している。また、耐性菌の検出状況や抗菌薬の使用状況、針刺し事事故事例や医療関連感染事例や、従業員に対する研修の実施状況などを報告している。医療関連感染事例の対応や本指針、感染対策に関するマニュアル等の制定・改廃の承認についての審議および意思決定を行っている。</p> | |
| ③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況 | 年14回 |
| <p>・ 研修の主な内容：職員に感染対策として周知・徹底したい知識や情報等をテーマとして、全職員対象に研修を実施している。平成30度は10種類の内容で27回集合研修を実施した。そのうち、抗菌薬の適正使用に関する内容は2回実施。研修会に参加することが困難な職員を対象にDVD貸出による研修を行った。また、DVD視聴が困難な職員にはカンファレンスルームでDVD上映研修を実施し、アンケート形式による受講報告書の提出を義務づけた。主に医師を対象としたE-learningも実施した。E-learningでは集合研修を撮影した動画を視聴できるようにしている。 所属長宛に未受講者一覧を配布し、年間2回以上受講するよう啓蒙を行っている。この結果、平成30年度は全職員2回受講100%を達成。 またこれとは別に、新規採用および中途採用職員には入職時に研修会を開催し、参加できない職員にはDVD貸出による研修を実施することで当院における感染対策に関する基礎知識の定着と感染対策の推進を行っている。</p> | |
| ④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況 | |
| <p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：病院長を含む病院運営協議会のメンバーを中心とした感染防止委員会 (ICC委員会) および医師、看護師、コメディカル、事務等の各所属から代表者を選出して構成するICT委員会をそれぞれ月1回開催し、院内における感染症の発生状況やその対策について報告し、周知徹底を行っている。 さらに、これらのメンバーを中心としたメーリングリストを作成し、「感染対策週報」として感染管理室長から毎週メールを配信することにより、当院における感染症発生状況を中心に、県内における感染症発症状況等の情報発信と情報共有を行っている。 他にもICTメンバーによる週2回の環境ラウンド (集中ラウンド・全病棟ラウンド)、抗菌薬ラウンド (毎日)、耐性菌ラウンド (耐性菌検出時)、ICTミーティング (毎日)、ASTミーティング (毎日) など様々な方策で感染対策および抗菌薬適正使用に係る、推進・充実に向けた取り組みを行っている。</p> | |

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

| | |
|--|------|
| ① 医薬品安全管理責任者の配置状況 | 有・無 |
| ② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況 | 年 2回 |
| ・ 研修の主な内容： 医薬品安全管理 1：H30年5月25日・麻薬の取扱い及び管理について・注射薬の取り扱いについて 医薬品安全管理 2：H31年2月18日・麻薬のインシデントについて・麻薬の事故対応について | |
| ③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況 | |
| ・ 手順書の作成 (有・無) ・ 業務の主な内容： 医師、看護師のリスクマネージャーに対し、各所属での手順実施状況を確認し薬剤部へ報告 薬剤部についても、まとめて確認を実施 | |
| ④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | |
| ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 病棟担当薬剤師から得られた情報や医療サービス課からの査定情報、厚生労働省およびPMDAからの通知や医薬品安全性情報などから情報を入手し、必要に応じて医薬品情報管理係よりDIニュース等で薬剤部から情報を発信する | |

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

| | |
|---|--|
| ① 医療機器安全管理責任者の配置状況 | <input checked="" type="checkbox"/> ・無 |
| ③ 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況 | 年 3 回 |
| <ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容： 医療安全管理研修 H30. 7. 9 医療機器の安全管理Ⅰ 放射線の安全管理とMRI検査 H31. 1. 16医療機器の安全管理Ⅱ 医療機器に関する安全な使用と管理 H30. 6. 26 R S T セミナー 人工呼吸中と安全管理「人工呼吸器はこんなに危ない」 適宜、病棟・部署単位での勉強会の実施 ・ 機器研修 3 2 件 (内、新規機器研修 1 2 件) | |
| ③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況 | |
| <ul style="list-style-type: none">・ 医療機器に係る計画の策定 (<input checked="" type="checkbox"/>・無)・ 保守点検の主な内容： 人工心肺関連機器 (補助循環装置) 人工呼吸器、透析関連機器、除細動器 (AED)、閉鎖式保育器、電気メス、麻酔器、高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線装置 (CT、MR) の定期点検の実施 | |
| ④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | |
| <ul style="list-style-type: none">・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (<input checked="" type="checkbox"/>・無)・ その他の改善のための方策の主な内容： 医療安全推進室とともに、PMDAや日本医療機能評価機構・医療機器センターからの情報の共有また、業者からの報告情報の共有を行っている。 | |

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 9 条の 20 の 2 第 1 項第 1 号から第 13 号に掲げる事項の実施状況

| | |
|--|----------|
| ① 医療安全管理責任者の配置状況 | 有・無 |
| <p>・責任者の資格(医師 歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理部門：医療安全推進室より必要に応じ報告する。 医療安全管理委員会：副委員長として参加。 医薬品安全管理責任者：医薬品安全管理会議の審議内容を報告する。 医療機器安全管理責任者：改正医療法に基づき、特定機能病院における医療機器関連の保守点検の計画・実施の報告を行う。医療機器安全管理会議の審議内容の報告を行う。</p> | |
| ② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況 | 有(4名)・無 |
| <p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品情報管理係にて、病棟薬剤師からの副作用等の情報を入手、医事データや電子カルテデータからは使用量や査定情報を入手、ヒヤリハット報告などの情報を取得し、必要に応じて医薬品情報管理係よりDIニュース等で薬剤部から情報を発信する。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>先進医療等審査委員会が申請を審議し、新規医療技術等評価委員会及び医の倫理審査委員会へ諮問し、答申を得、先進医療等審査委員会が適否を決定する。処方変更などの事例発生時には、病棟薬剤師より提案し対応し、必要に応じて医薬品情報管理係を通して医薬品安全管理責任者に報告する。</p> <p>・担当者の指名の有無(有)・無</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>(所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p> | |
| ④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況 | 有・無 |
| <p>・医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有)・無)</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容</p> | |

：平成29年7月制定の「インフォームドコンセントマニュアル」で定めた方法により、説明・同意が順守されているかの確認を、同意書等審議委員会において、月1回開催し、実施している。また、適切に実施されるよう医療従事者への指導等を実施した。

| | |
|------------------------------|---|
| ⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況 | <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 |
|------------------------------|---|

・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：

【診療録の記載内容の確認】

各診療科別に、任意に抽出した患者の診療録の内容をチェックリストに基づき点検を行い、点検結果を診療科にフィードバックした。

【指導内容の主な内容】

- ・手術記録が日本語でなされていない。
- ・研修医の診療録記載に指導医の承認のないものがあつた。
- ・インフォームドコンセントに関して、患者の同意の確認の有無の記載がないものがあつた。

| | |
|------------------------|---|
| ⑥ 医療安全管理部門の設置状況 | <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 |
|------------------------|---|

- ・所属職員：専従（6）名、専任（0）名、兼任（3）名
- うち医師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（1）名
- うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名
- うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（ ）名
- うち臨床工学士：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（1）名
- うち事務：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（1）名

（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

- ・医療安全管理のための基本方針の策定及び変更に関すること。
- ・医療事故及びインシデントに関する診療録及び看護記録等の記載事項の確認と指導に関すること。
- ・医療事故等の発生時における患者又は家族等への対応状況の確認及び指導に関すること。
- ・医療事故等の原因究明が適切に実施されていることの確認と必要な指導に関すること。
- ・医療事故等の分析と安全管理に係る改善策に関すること。
- ・医療事故等の改善策の実施状況の評価、再発防止に向けての検討に関すること。
- ・医療安全に係る情報提供及び連絡調整に関すること。
- ・患者等や職員からの医療・診察の安全に関する相談及び連絡調整に関すること。
- ・リスクマネージャーによる医療安全推進活動に関すること。
- ・肺血栓塞栓症予防体制の確立に向けた活動に関すること。
- ・呼吸サポートチームの活動の調整、記録物等の保管に関すること。
- ・医薬品安全管理に関すること。
- ・医療機器安全管理に関すること。

- ・その他医療安全対策の推進に関すること（Safety-Net の構築、チーム STEPPS の推進）
- ・診療内容のモニタリング（褥瘡発生率、肺血栓症予防対策実施率）
- ・医療安全の認識のモニタリング（「医療における安全文化に関する調査」）

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（3件）、及び許可件数（3件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：
 先進医療等審査委員会から諮問があった場合、科学的妥当性、実現可能性について検討し、その提供の適否等に関する評価を答申する。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（2件）、及び許可件数（2件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：
 先進医療等審査委員会から諮問があった場合、科学的妥当性、実現可能性について検討し、その提供の適否等に関する評価を答申する。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年759件（平成30年度）
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったも

のとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年674件(平成30年度)

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

- ・医療安全管理に関する重要案件の審議に関すること。
- ・医療事故等の分析と安全管理に係る改善策に関すること。
- ・医療安全管理委員会で立案された改善策の実施並びに実施状況の調査及び見直しに関すること。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（有）（病院名：東京大学）・無
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有）（病院名：九州大学）・無
- ・技術的助言の実施状況：先進医療等審査委員会において、高難度新規医療技術、先進医療、自由診療、院内調剤等の多岐に渡る医療技術等の審査を行っているが、審査前の段階で、案件が該当する医療技術等を明確にしてから審査するように改めた。また、実施後の状況の検証については、審査する際に症例の内容に応じて報告件数なども審議・決定するように改めた。

立入り：東京大学（平成30年11月29日実施）

受入れ：九州大学（平成30年10月11日実施）

評価項目は、国立大学附属病院長会議常置委員会医療安全管理体制担当校である大阪大学が作成している。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

総合相談窓口（医療相談室 相談係）、患者・家族支援室を設置済み

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

医療法施行規則に従い、集合研修を実施している。インシデント・アクシデント報告の方法・その後の流れを含む本院医療安全の基礎、患者・家族との協働、DNAR、医療情報の安全な利用について、及び、本院の現状を基に改善策を提案する内容の研修を行っている。平成30年度の集合研修は10回開催した。また、平成30年度はeラーニングを導入し、567628名が受講した。

平成30年度は前述の集合研修の内容の他に、せん妄（50名）、チーム STEPPS 等（計6回 135名）に関する研修を行った。

未受講者対策として、本人宛受講促進通知を出すとともに、所属長・リスクマネージャーに促進依頼通知を出している。（平成2930年度 未受講者60名（2.6%）、2回以上受講率95.6%）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者

- ・平成30年度特定機能病院管理者研修（平成31年2月6日受講）

医療安全管理責任者

- ・平成30年度特定機能病院管理者研修（平成31年1月21日、22日受講）

医薬品安全管理責任者

- ・平成30年度特定機能病院管理者研修（平成31年1月23日受講）

医療機器安全管理責任者

- ・平成30年度特定機能病院管理者研修（平成31年1月23日受講）

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

| | |
|--|-------|
| 合議体の設置の有無 | (有)・無 |
| <p>・ 合議体の主要な審議内容 医療法施行規則（平成30年厚生労働省令第70号）第9条の23の規定にかかる特定機能病院の管理運営に関する重要な事項及び病院経営・運営方針等院務に関する重要な事項</p> <p>・ 審議の概要の従業者への周知状況 院内全所属の所属長が委員であるので、所属に持ち帰って周知を行う。 加えて、実務を担当している医局長が参加する医局長会でも、運営協議会での審議内容を議題とすることにより、広く周知を図っている。</p> <p>・ 合議体に係る内部規程の公表の有無（有 <input checked="" type="radio"/> 無）</p> <p>・ 公表の方法</p> <p>・ 外部有識者からの意見聴取の有無（有 <input checked="" type="radio"/> 無）</p> | |

合議体の委員名簿

| 氏名 | 委員長 (○を付す) | 職種 | 役職 |
|-------|---------------|----|--------|
| 古家仁 | ○ | 医師 | 病院長 |
| 斎藤能彦 | | 医師 | 教授 |
| 室 繁郎 | | 医師 | 教授 |
| 吉治仁志 | | 医師 | 教授 |
| 杉江和馬 | | 医師 | 教授 |
| 庄 雅之 | | 医師 | 教授 |
| 中瀬裕之 | | 医師 | 教授・副院長 |
| 谷口繁樹 | | 医師 | 教授 |
| 田中康仁 | | 医師 | 教授・副院長 |
| 桐田忠昭 | | 医師 | 教授 |
| 小林 浩 | | 医師 | 教授 |
| 嶋 緑倫 | | 医師 | 教授 |
| 緒方奈保子 | | 医師 | 教授 |
| 北原 紘 | | 医師 | 教授 |
| 浅田秀夫 | | 医師 | 教授 |
| 藤本清秀 | | 医師 | 教授 |
| 岸本年史 | | 医師 | 教授 |
| 吉川公彦 | | 医師 | 教授・副院長 |
| 川口昌彦 | | 医師 | 教授 |

| | | | |
|-------|--|---------|-------------|
| 福島英賢 | | 医師 | 教授 |
| 長谷川正俊 | | 医師 | 教授 |
| 西尾健治 | | 医師 | 教授 |
| 桑原理充 | | 医師 | 准教授 |
| 大林千穂 | | 医師 | 教授 |
| 城戸 颯 | | 医師 | 准教授 |
| 澤端章好 | | 医師 | 准教授 |
| 鶴屋和彦 | | 医師 | 教授 |
| 山崎正晴 | | 医師 | 准教授 |
| 松本雅則 | | 医師 | 教授 |
| 山尾純一 | | 医師 | 准教授 |
| 玉本哲郎 | | 医師 | 准教授 |
| 西久保敏也 | | 医師 | 准教授 |
| 笠原 敬 | | 医師 | 准教授 |
| 神野正敏 | | 医師 | 准教授 |
| 四宮敏章 | | 医師 | 准教授 |
| 石井 均 | | 医師 | 教授 |
| 上村秀樹 | | 医師 | 教授 |
| 平井都始子 | | 医師 | 准教授 |
| 辰巳満俊 | | 医師 | 准教授 |
| 赤井靖宏 | | 医師 | 教授 |
| 笠原正登 | | 医師 | 教授 |
| 西浦嘉彦 | | 事務 | 理事(総務・経営担当) |
| 川田靖之 | | 事務 | 病院経営部長 |
| 藤田和成 | | 事務 | 病院経営部次長 |
| 畑 浩之 | | 事務 | 課長 |
| 鶴谷幸彦 | | 事務 | 課長 |
| 鈴木小百合 | | 事務 | 室長 |
| 上野 聡 | | 事務 | 課長 |
| 中谷好伸 | | 事務 | 課長 |
| 熊谷行訓 | | 事務 | 室長 |
| 辻 力夫 | | 薬剤師 | 薬剤部長 |
| 高橋美雪 | | 看護師 | 看護部長・副院長 |
| 吉川雅則 | | 医師 | 准教授 |
| 田中 忍 | | 臨床検査技師 | 技師長 |
| 吉峰 正 | | 診療放射線技師 | 技師長 |
| 萱島道德 | | 臨床工学技士 | 技師長事務取扱 |
| 今村知明 | | 医師 | 法人特命企画官 |

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有 無）
- ・ 公表の方法

- ・ 規程の主な内容
病院規程
会計規程、細則

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
副院長：病院長の補佐
事務長：病院長の下、病院事務を統括
院長ガバナンス支援タスクフォース：関係部署による病院長ガバナンス強化のサポート

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
病院事務のプロフェッショナル育成のための人事異動
診療情報管理士の資格取得の支援
法人職員の県派遣実務研修の実施

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

| | |
|--|-------|
| 監査委員会の設置状況 | (有)・無 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 監査委員会の開催状況：年2回 ・ 活動の主な内容：医療安全管理に係る事項を監査し、是正措置を講ずるよう意見具申を行う。 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（(有)・無） ・ 委員名簿の公表の有無（(有)・無） ・ 委員の選定理由の公表の有無（(有)・無） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有・(無)） ・ 公表の方法：本学ホームページにおいて一般に公開 | |

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

| 氏名 | 所属 | 委員長 （○を 付す） | 選定理由 | 利害関係 | 委員の要件 該当状況 |
|-------|------------|-------------------|---|-------|---------------|
| 水本 一弘 | 和歌山県立医科大学 | ○ | 和歌山県立医科大学附属病院医療安全推進室長であり、医療にかかる安全に関する識見を有するため | 有・(無) | 1 |
| 加藤 高志 | 加藤高志法律事務所 | | 医療に関する訴訟経験が豊富であり、法律に関する識見を有するため | 有・(無) | 1 |
| 松井 忠昭 | ボランティアグループ | | 病院の状況への理解が深く、医療を受ける側の立場からの客観的意見を得られるため。 | 有・(無) | 2 |
| | | | | 有・無 | |
| | | | | 有・無 | |
| | | | | 有・無 | |

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
 3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

書面および実地により会計等に係る監査を実施

- ・ 専門部署の設置の有無 (有 ・ 無)
- ・ 内部規程の整備の有無 (有 ・ 無)
- ・ 内部規程の公表の有無 (有 無)
- ・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

| | | | |
|---|----|---------------|------|
| 開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 <p>役員会では附属病院の予算決算等の管理運営に関する審議事項があり、理事長（開設者）が病院業務に関与し監督している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会議体の実施状況（年34回） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（<input checked="" type="radio"/>有・無）（年34回） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（有<input checked="" type="radio"/>無） ・ 公表の方法 | | | |
| 病院の管理運営状況を監督する会議体の名称： | | | |
| 会議体の委員名簿 | | | |
| 氏名 | 所属 | 委員長 (○を付す) | 利害関係 |
| | | | 有・無 |

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

| 窓口の状況 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 通報件数 (年0件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 周知の方法 本学ホームページにおいて一般に公開 |